

まるのか

7. 農薬の防除対策の指導
8. 毒性の少ない農薬
9. 有機農法の日本の農業は

略

### (3) パキスタン

パキスタン側

1. 日本の乳幼児死亡率は  
(学生)
2. 日本人の文盲率は  
(教授)
3. 日本の大学の数は  
(学生)
4. 日本の進学率は  
(教授)
5. 日本人は住居が狭くて困っているのではないか  
(教授)

〔この質問でもわかるように、普及  
事業が始まっていない国である。〕

もあることはある

- ・長年気長に理解させる
- ・農薬の学習が大切
- ・無農薬は成立しない。科学的な研究をしつつある。天敵なども研究されている。

略

日本側

- ・日本では問題にならない、現在 0.6% (パキスタンでは10%をこえる) である。話題になるのは成人病である。
- ・日本の義務教育は6歳から9年間で99%が新聞が読める。小学校の制度は100年以上の歴史がある。
- ・日本には47の県があるが、どの県にも官公立の大学が1つ以上あり、その他に私立の大学が同じ数以上ある。
- ・9年の義務教育が終わって高校へ行くのが、今93%以上で、どの県もそれを下回る所はない。
- ・東京とその周辺は狭い家が多いが、農村部にはゆったりとして大きな家も多く、東京以外で住んでいる人はゆったりしている。

## 4. 実施成果等

フィリピン

帰国研修生の上司4人、特に所長が出て下さり、会は盛り上がり、大いに質問が出された。

次長で普及教育担当の方が、国の農薬問題の検討委員会に委員に出ているということ  
で、特に農薬防除衣に関心があり、着てみて、その考案のポイントを納得するという場面も  
あった

タイ

帰国研修生だけのささやかなセミナーをJICAの会議室で実施した。これはこれで気兼ねなくポンポンと質問が出され、時間ぎりぎりまで応答がつづいた。

展示品にもよく関心を示して、少人数だが気分は盛り上がった。

パキスタン

階段教室で大勢であったが、スライド（JICAの機械を持参したため）が調子よく画面もはっきり、英語の解説テープもはっきりして、よくわかって頂いた。展示品も皆、集まってきて着てみたり、試食してみたり、賑やかであった。又、質問に答えると、データがあまり日本のがよいので感心していた。要するに、パキスタンの一般人は、それほど日本のことを知らないという感じであった。盛会であった。

## Ⅳ. 添付資料

### 1. 当該コースの概要

#### 1) コース開設年及び開設の経緯

- ・コース開設年 1980年(昭和55年)
- ・開設の経緯

「国連・婦人の十年」(1976~1985)の設定にともない、世界の女性のおかれている状況についての認識が広まり、①女性とりわけ発展途上国の一般女性をとりまく状況を改善するためには、発展途上国の大部分を占めている農村部の生活水準を高め、そこで生活する農村女性の立場を向上させることが不可欠であること、②発展途上国の課題である経済開発を促進するためには、農村女性の能力と地位の向上を通じて農村の生活水準を高めることが必要であること、が認識されるに至った。ところが、農村生活と農村女性の能力・地位の向上を図る上で大きな役割を果たす生活改善普及事業の重要性が、発展途上国では十分認識されていない場合も多い。本コースは、このような背景のもとに発展途上国で生活改善普及事業を進める人材を育成し、各国の農村女性に生活改善のための技術を普及させ、ひいては農村生活と女性の地位を向上させることを期待して実施したものである。

#### 2) 研修機関及び講師等

##### ① 大項目と主な講師

- |                               |  |
|-------------------------------|--|
| 1. 日本における生活改善<br>普及事業の概要      | 1988年実施の例である。<br>生活改善課長 他5名                |
| 2. 日本の農家生活                    | 明治薬科大学講師・農村社会学<br>大内雅利 他                   |
| 3. 農村婦人の草の根活動の<br>要点とそのすすめ方   | (前普及指導活動担当)<br>堀家欣子 他                      |
| 4. 農家・農村における食生活<br>改善の要点と普及方法 | お茶の水女子大学名誉教授<br>福場博保<br>香川栄養大学教授<br>足立己幸 他 |
| 5. 食生活改善推進に関する<br>普及活動の実際     | 生活改善技術研修館長<br>小池和子 他                       |
| 6. 普及事業関係組織等<br>の食生活改善の推進活動   | 生活改善普及職員<br>栃木県専技 高橋久美子 他                  |
| 7. 各国食生活改善関係                  | 鯉沼学園講師                                     |

活動の現状

安孫子智恵 他

8. レポート作成

堀家欣子 他

② 研修機関

本研修コースは農林水産省農蚕園芸局生活改善課(1)と国際協力事業団(2)との協力により実施する。研修の運営管理については、社団法人農山漁家生活改善研究会(3)に委託する。三者の業務分担は以下のとおりである。

業 務	(1)	(2) <sup>※1</sup>	(3)
終了証書の発行	◎ <sup>※2</sup>	◎	
参加研修員の選択 研修員の病気、事故、その他トラブルの処理 反省会の開催	○ <sup>※3</sup>	◎	○
G.1.(英文募集要項)の作成、発送 実施要項の作成 英文日程表、研修員リストの作成 ブリーフィング、オリエンテーション、日本語講習の準備、 実施等 研修員の来日、帰国フライトの手配 研修員への生活費、旅費等の支給 講義通訳		◎	
宿舍、交通機関の手配		◎	○
研修実施予算の作成 テキストの作成、配布、保管等 委託契約の締結		◎	◎
講師の選定、依頼 講義、見学等の依頼文書の発信 研修実施報告書の作成	○		◎
研修プログラム案の検討 研修評価会、閉講式の準備、進行	○	○	◎
研修旅行同行依頼文書の発信		○	◎
研修プログラム原案の作成 補助資料、講義レジュメ等の作成、配布、保管等 視聴覚器材、教材の準備 講師へのオリエンテーション 講義内容、進行の調整 講師への謝金、旅費の支給 見学先との打合せ 研修資料整理 研修経費の精算			◎

- 注 ※1 研修監理員を含む  
 ※2 ◎印は主分担業務を表わす  
 ※3 ○印は補助業務を表わす

## 3) 国別帰国研修員数

国別研修員実績表

国名	55年	56年	57年	58年	59年	60年	61年	62年	63年	計
バングラデシュ	2	1	0	0	0	0	0	1	2	6
ブータン	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1
ビルマ	0	0	0	2	2	1	0	0	0	5
インド	1	1	1	0	1	0	0	0	0	4
インドネシア	1	1	1	1	1	2	2	1	1	11
イラク	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1
大韓民国	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1
マレーシア	1	1	1	0	1	0	1	0	1	6
ネパール	0	1	0	0	0	0	1	1	1	4
パキスタン	1	1	0	1	1	1	1	1	0	7
フィリピン	1	1	3	1	1	2	1	1	1	12
スリランカ	0	0	1	1	0	0	0	1	0	3
タイ	1	1	0	1	2	0	0	2	2	9
トンガ	0	0	0	0	0	1	1	1	0	3
合計	8	8	7	8	9	8	8	9	8	73

4) コース終了時のエバリュエーション集計結果

研修員名	コースに対する改善提案	帰国後の知識の応用の可能性・問題点	JICAに対する要望	日本に対する一般的印象
ルトファナハール (バングラデシュ)	1) 日本語コースは1ヶ月以上の期間にしてほしい。農家泊のプログラムで日本の地域生活全体を理解するには時間が十分でなかった。 2) 実習・演習の時間を増やしてほしい。 日本で学びの発展に参考になる知識：(a)食生活、バランスのとれた食事(b)食品加工(c)健康増進のための地域開発：理想的な家、地域(d)家族計画期間での講義・フィルム他普及所、婦人実行グループ、普及員の活動、農家生活見学を通じて社会文化活動についての知識も与られ国の改善に努めようと思う。	1) 我々に合ったプログラムで、農村婦人を養成する。 2) 上司と協力し「生活改善普及セミナー」を開催し、日本のシステムを紹介する。 3) 日本との違いは、貧困及び高い文盲である。 海外からの協力・援助でプロジェクトを進めている。 いずれにせよ全力で国の改善にとり組みたい。	多くのJOCVが地域で普及活動を行っている。JICAへの要望は生活改善普及関係のJOCVの派遣を強化してほしい。	1) 日本は高度に発展した国であり製品は、近代技術を導入した洗練されたものである。 2) 国全体が美しく、清潔であり日本人は、義務感が強く、マナーがよく親切かつ協力的である。日本人の誠実さが日本の発展をもたらしたと思う。 3) 研修コースは、システムティックでTICでの生活はすばらしかった。 4) 関係各位にお礼を申し上げたい。
ナルボス シデキア (バングラデシュ)	1) 日本語は農家泊のプログラムで大きな問題だった。 日本語コースは不十分なので時間的に長くしてほしい。 2) コース中午前中は講義、午後は実習、ディスカッションとし、研修員間の意見交換をし、各国の実情も知るようにしてほしい。	1) このコースで得たことは、日本の農業、食生活、農家生活、地域環境と健康増進、婦人、実行グループの活動、普及活動計画作成である。これらの知識を国の発展に出来るだけ応用して行きたい。	JOCVの生活改善普及部門の派遣を強化してほしい。	1) 日本は美しい国で緑の山々、川などが各地で見られる。 2) 計画的に発展を成し上げた点で、イギリス・アメリカに匹敵する。 3) 日本人は時間に正確で信頼でき、協力的かつよく働く。親切かつ素朴である。 4) 日本で好きな点 a. 家族意識 b. 集団意識 c. 敬者の精神 d. 競争心 e. 中流意識
ジエムライナー (インドネシア)	1) 直面した問題はことばの問題で、講師その他とのコミュニケーションが困難だった。しかし通訳でもあるコーディネーターがおり、もし私が日本語が出来たらもっとよかった。 2) コーディネーターは出来るだけのことをして私たちの手助けしてくれた。 3) 日本語の資料の配布があったが英訳してほしい。	バレンバング南スマトラ農業事務所に農民がもっと働くよう、又婦人グループの活用、食生活改善をするよう伝える。	1. JICAと我々の協力関係がより長く続くことが大切だと思う。政府間協力だけでなく、地方政府間の交流を促し、地元レベルの職員も知識経験を得る機会を与えたい。	1) 日本は経済、工業、商業、金融だけでなく社会福祉の面でも先進国である。 2) 日本人は、勤勉で走るように歩く。規律正しい。平等化で日本は繁栄し幸福となった。 3) 人づくりは日本で成功している。日本の繁栄の理由の1つは、地方政府の努力があると思う。県、市、町村レベルで各地域の人々の生活向上にむけて各自尽力している。 4) 日本人は、親切、あたたかく、協力的で、国から遠く離れている気がしなかった。 5) 我々もいつか日本のように発展することを願うと共に日本・インドネシア政府の協力に感謝したい。
ノリア・ハジング (マレーシア)	日本語の問題 ほとんどの情報が日本語だったがコーディネーターが手助けしてくれた。もし日本語が出来れば学ぶところはもっと多かったと思う。	1) 家政プログラムを改善する。 a) 婦人グループ活動への継続的参加を促進する。グループ活動により意識の向上、意志決定技術、リーダーシップ養成、チャレンジ精神の養成を計り、家事だけでなく婦人が社会・経済参加を積極的に出来るようにする。 b) 食生活の向上—有効な教材開発及び十分な野菜の供給 c) 企画、評価の方法・技術	生活改善普及及び幼児能力開発とも関連しているもので、さらに詳しい情報をえるための研修に参加し私の仕事に役立てたい。	1. 都市でも緑がコンパクトに配され近代都市を形成している。地方はさらに美しい景色がある。 2. 日本は近代化、発展を成し上げた一方で、伝統的作法、習慣を今だに守っている。日本人の生き方、茶法、花道などの作法に感銘した。 3. 日本人は一般的に親切、勤勉、正直。 4. 技術の高さに印象づけられた。交通機関、農業生産、工業制度など。
ビジャズンダー (ネパール)	1. ことばの問題があった。がコースリーダー・コーディネーターが協力的だったので、農家泊のプログラムを遂行出来た。 2. 研修プログラムと日本語を平行して行くと、いくつかの問題も緩和され研修も楽しくなると思う。 3. 農家泊は1週間がよい。そうすればもっと生活に慣れると思う。 4. 実習・演習が短すぎる。乾燥、塩づけ、くんせい、酢づけ、冷凍の実習が前半に出来たら帰国までに成果が見られると思う。 5. 家族計画の講義が短かった。 詳しい講義を次回組み込んでほしい。	1. ネパールにとって、この研修は簡明かつ適当であった。この研修コースを短絡かつネパールの環境に合うよう修正したコースを現場で働く婦人開発担当官に適用する。	1. このような研修・教材作成するには、資金がない。婦人開発プログラムを大規模に行う上で、JICAの貢献度は高い。 2. ネパールの研修員がもっと研修に参加し、日本の技術に接することが出来るようにしてほしい。 3. 家族計画の考え方を促進し高い出生率をおさえたい。	1. 日本は均一な国家でありそれにより成功を治めた。個人よりグループが重視される考え方が一般的である。 2. 保守的かつ静かな日本人であるがはずかしがりなところをとり除くとあたたかい人々である。 3. 規則は、世界の大都市と共通で、好きに歩きまわられる自由さがある。 4. 日本人の勤労理念は世界のどの社会でもマッチしにくいと思う。日本人は、働くことを好み労働者は、規律正しい。 5. 物質文明の中でも日本人は、伝統に対する愛着や信義を重んじ、年間を通じて祭りごとを行う。

研修員名	コースに対する改善提案	帰国後の知識の応用の可能性・問題点	JICAに対する要望	日本に対する一般的印象
デリア・フボガド (フィリピン)	<ol style="list-style-type: none"> <li>オリエンテーション: 5日間の期間では日本文化・生活感を事前に日本について研究しないかぎり理解出来ない。</li> <li>日本語コース 3ヶ月以上の期間とし読み書きを加える。</li> <li>研修員は事前に日本の文化・歴史習慣について勉強し日本風やり方に早くなれるようにする。</li> <li>配布される資料は、英訳少なくともローマ字化するべきである。</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>食生活・栄養の改善(食料の選択的生産を含めた改善)による健康増進</li> <li>地域における資源の利用</li> <li>収穫時期以後の時間の利用及び栄養環境衛生の改善</li> <li>農産物のフローがスムーズに行くよう農業共同組合の運営を改善する。</li> <li>特殊技術、有効なマーケティングの選択</li> <li>地域における婦人活動を続けて行くためには婦人の能力開発を促進するためにリーダーシップを養成</li> </ol>	この研修プログラムをフォローアップするために「食品加工」の個別コース又は、前述の帰国後の計画に必要なコースに参加したい。	<ol style="list-style-type: none"> <li>日本の農業、単純なデザイン、寺社、効率性、規律、何から何までお金さえあれば買える無秩序なマーケットなど日本には能力がたぐさる。</li> <li>上司も部下も共に仕切りのない部屋で働く日本のオフィスのレイアウトは、協調性と調和の雰囲気づくりに適している。</li> <li>日本との間に交友関係を持つことが出来なかった。地域ごとの人の性格の違い、なるべく他人とのもめごとをさげようとする姿勢、沈黙が高く評価されることがわかった。特に単一民族であるゆえに、日本は急速な経済発展を成し遂げた。</li> </ol>
カンタモン・デ (タイ)	<ol style="list-style-type: none"> <li>オリエンテーションは日本に着いたばかりの研修員に役立つと思う。</li> <li>日本語の教授法は説得的で魅力がある。提案として1ヶ月の期間がほしい。53時間では不十分である。</li> <li>この研修コースは途上国と日本のような先進国の意見交換の場として適当だと思う。</li> <li>カン・リターンレポート発表は、参加国の現状を知るのに適している。</li> <li>農家泊は、私の観察、話し合いを通じて日本の地域の生活を知ることが出来有意義だった。</li> <li>研修旅行は講義で学んだことを実際に観察するという意味で有意義だった。</li> <li>実習、例えば「資料作成及び指導」では、ポスター作りと発表がありよかった。</li> <li>TICは、便利で居心地がよく家にいるような気がした。</li> <li>資料は有用で役に立つものだったが、英訳のしていない資料もあり仕事には使用出来ない。</li> </ol>	<p>応用できる点として以下がある。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>グループ構成と養成:日本の実行グループは、きずなが強く長つづきし参考になる。</li> <li>地域開発のためのコミュニケーション:PR活動及びマスメディアの活用は、生活改善運動を支えている。</li> <li>企画と評価:地域の人々に企画・記録づくりを進めることは、普及活動の改善に役立つ</li> <li>パッケージ:製品を包装するにあたり農家に工夫するよう進める。それにより製品に高値がつけられると思う。</li> </ol>	日本における農業共同組合の活動について、私のオフィス又は関係組織の者が、研修を受けられるようにしてほしい。	<ol style="list-style-type: none"> <li>日本人は、時間に正確、義務感が強く主義主張がある。</li> <li>戦後40年のうちに日本はあらゆる分野で急速に進歩した。</li> <li>交通機関は便利で速い。</li> <li>環境保全が全国的に普及している森林伐採の問題はない。</li> <li>コミュニケーション制度・マスメディアの利用は、日本全国に広がっている。</li> <li>経済の地域差がない。</li> <li>地域文化がよく保全されている。</li> <li>教育制度がよく整っている。</li> </ol>
バクマ・アジニア (タイ)	<ol style="list-style-type: none"> <li>農家泊をよりよく又より理解するためにも、日本語コースを2ヶ月にしてほしい。</li> <li>市場調査・農家制度についてのプログラムを増してほしい。というのは日本ではこの分野の成功事例があるからである。 全体的には、このコースの企画・実施には満足している。内容的には興味がありタイでの私の仕事に関連がある。日本の地域における生活改善普及の技術・方法は途上国にとって手本である。私の仕事に活用出来る技術方法を数多く入手した。</li> </ol>	<p>現在ある「家政プログラム」に以下のアイデアを採用して行きたい。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>両親を教育することによって、家族の雰囲気をよくする。</li> <li>適当なトレーニングを行い、婦人グループにリーダーシップを育て、農村婦人の地位向上を計る。</li> <li>農家に機械化、投資方法を教育し農業経営の向上を図る。</li> <li>包装の重要性を考慮するグループ活動を進める。</li> </ol>	途上国の婦人リーダーが他国のリーダー達と交流がもてるようJICAに援助してほしい。というのは婦人が家事を行う者としてグループリーダーとして、コミュニティーのリーダーとして能力開発している実践で彼ら達が、他国、特に日本の状況を観察出来れば大きな利益になると思う。	<ol style="list-style-type: none"> <li>日本人の仕事に対する責任感、どうして日本人が完璧に仕事の中で義務を遂行するのか不思議である。又遂行するにあたり、時間のロスもない。</li> <li>両親が子供達をどのようにしてすなおで強い人間に育て上げるか知りたと思う。</li> </ol>

GENERAL EVALUATION SHEET

NAME OF PARTICIPANT: \_\_\_\_\_

NATIONALITY: \_\_\_\_\_

Please tick those boxes one in each of the sections (a) to (e), and, in appropriate cases, the boxes in (f). In all cases the boxes ticked should be those which correspond most nearly to your views on the suitability of the study/training given:

- |                                |                          |  |
|--------------------------------|--------------------------|--|
| (a) <u>Subjects</u>            | <input type="checkbox"/> | Coverage too broad                         |
|                                | <input type="checkbox"/> | Coverage just right                        |
|                                | <input type="checkbox"/> | Coverage incomplete                        |
| (b) <u>Level</u>               | <input type="checkbox"/> | Too advanced                               |
|                                | <input type="checkbox"/> | Just right                                 |
|                                | <input type="checkbox"/> | Too elementary                             |
| (c) <u>Clarity of lectures</u> | <input type="checkbox"/> | Very clear                                 |
|                                | <input type="checkbox"/> | Adequate                                   |
|                                | <input type="checkbox"/> | Difficult to follow                        |
| (d) <u>Treatment</u>           | <input type="checkbox"/> | Not enough practical                       |
|                                | <input type="checkbox"/> | Just right                                 |
|                                | <input type="checkbox"/> | Not enough theoretical                     |
| (e) <u>Duration</u>            | <input type="checkbox"/> | Too short                                  |
|                                | <input type="checkbox"/> | Just right                                 |
|                                | <input type="checkbox"/> | Too long                                   |
| (f) <u>Others</u>              | <input type="checkbox"/> | Language problems                          |
|                                | <input type="checkbox"/> | Background of participants too diversified |
|                                | <input type="checkbox"/> | Little applicability                       |

This sheet is supplementary for the Final Report.



日付	科目	評価			コメント
		A	B	C	
6/1~3	ネリエンテーション	5	3		TIOになれるのに役立った(ビジャヤ)
6/6~	日本語コース	7			日本人と親しくなれたので有意義(ビジャヤ)
6/13	日本の農業の概要	4	4		日本の農業について理解出来た(ビジャヤ)時間が足りない(デリア)
6/14	日本の農家・農村社会	7	1		時間が足りない(デリア)
6/15	農業改良普及事業の概要	2	6		時間が足りない(デリア)
6/16	生活改善普及事業の概要と国際的例	4	4		生活改善について理解出来有意義(ビジャヤ)時間が足りない(デリア)
6/17	普及事業関係組織の食生活改善の推進活動	5	3		いろいろな問題について話し合いよかった(ビジャヤ)時間が足りない(デリア)
6/20	農家・農村生活の特徴と問題の発露	7	1		
6/21, 22	農家・農村の生活改善の課題とその技術	7	1		
6/23	生改・専技の機能、活動・役割	8			
"	健康に関する生活改善と婦人対策	4	4		
6/24	普及関連組織の食生活改善の推進活動	8			
"	課題検討	4	2		
6/27	国立婦人教育会館の活動と組織	8			婦人のためのセンターを見られてよかった(イダ), 婦人教育についてよい情報だった(ビジャヤ)
6/28~30	カントリーレポートの発表と討議	8			他国の状況・食生活がわかってよかった(イダ), 意見交換の場としてよかった(ノリア), 全員が積極的にそれぞれの国がもつ問題について意見交換した。(ビジャヤ)比較研究としてよかった(カノクボーン), (アビニア)
7/1	農家・農村・普及所の概観	7	1		農家・農村、普及所の実際が見学出来てよかった(イダ), 普及に対するアプローチが技術的, システムチック(ノリア), 興味深かった。ネパールではシステムチックに農業はしないが融資を行っている(ネパール), 普及員の働く姿が見られなかった(デリア), 準備がよい。婦人の協力体制に関心(カノクボーン)時間があれば農協も知りたかった。
7/4	生活改善グループの活動	6	2		
"	普及方法の原理・普及方法	6	2		論議が上手である。普及方法に対する比較研究がよい(カノクボーン)
7/5	農業者の健康と食生活	8			知識と語学力が素晴らしい。地域の食生活と健康について例をもっと紹介して下さるとよかった(カノクボーン)・栄養に対する知識が深い。しかし私自身にはない(アビニア)
"	健康対策における集落環境整備	6	2		
7/6	食品加工の原理	6	1		
7/7	生改・専技の研修	4	4		
"	健康生活への課題	8			
7/8	食品構成と農家の食糧自給計画	7	1		
"	食糧増進に関する専技の活動	7	1		
7/11	食生活診断と改善対策	8			
7/12	グループ指導の計画的すめ方	8			実行グループメンバーに会うことが出来たのはよかった。ただ現地で話が聞きたかった。しかし彼女の説明は長すぎた(アビニア)
7/13	普及方法の原理と普及計画	8			
"	自国における普及計画と食改善指導	8			
7/14	食生活改善教材研究	8			大変よく理解教授法がたのしい(ナルギス), よい経験をした(ノリア), 論議が上手である。多くのことを学んだ。ポスターに対するコメントは私の国に役立つ(カノクボーン)
"	" 指導計画	8			
7/15	自国における普及計画と食改善指導	6	2		私の仕事に役立つ(ナルギス)
"	食改善の要点と普及方法	7	1		
7/18	京都府表教, 京都市内農家訪問	5			スケジュールがタイトである(ノリア)
7/19	伏見婦人実行グループ訪問	8			
7/20	広島平和記念公園	8			
7/21	山口県表教, 山口県農業活動の概要	8			
7/22	山口生活改善普及員の活動	8			グループの積極的態度に感心(ノリア)
"	宿泊農家との顔合せ	8			
7/23~25	農家宿泊	8			思い出に残る体験(ナルギス), よい体験。みなよく働き、最新の技術を使用している。婦人は積極的(ノリア)
7/26	農家宿泊の経験交換	8			
"	山口衛生通所, 保育園, 副収入プロジェクト	7	1		
7/27	グループリーダー研修見学	8			
"	料理教室, グループリーダーとの意見交換	8			
7/28	山口県のプログラムに対する評価, 反省	8			よいプログラムだった(ナルギス)
8/1	山口におけるプログラムの補足的説明	4	2		
"	食糧自給を自国で学習する工夫	7	1		
8/2	生活改善リーダーの養成	6	2		
8/3	食糧自給を自国で学習する工夫	7			自国に役立つ(ナルギス)
"	家族計画の普及推進	7			
8/4	レポート作成	6	1		レポート作成は大切(ナルギス)
8/5, 8	レポート発表	4	3		
8/8	評価会	6	1		

## 2. QUESTIONNAIRE

---

It would be highly appreciated if you could extend your kind cooperation to our visiting team during their stay. The team members are looking forward to a warm reunion with ex-participants.

Finally, let us offer you our sincere prayers for your continued health and success with your work.

Yours sincerely,

---

Resident Representative  
Japan International Cooperation Agency  
in  
Pakistan

Follow-up Team for Ex-participants of the Group Training Course  
in Home-Life Improvement Extension in Rural Area

1. Objective: The follow-up team will visit ex-participants' organizations and related organs for the purpose of  
i) providing consultation through evaluation of the results of the training in Japan and identification of problems and needs ex-participants may now have in their daily execution of work,  
ii) improving JICA's future training programs in the field of Home-Life Improvement Extension Services.
2. Period: From November 6, 1988 to November 27, 1988  
For further information, please refer to the tentative itinerary attached herewith.
3. Members: Ms. Kinko HORIKE  
Executive Director, Rural Home & Family Living Improvement Study Association  
  
Mr. Yoshio ISHIZAKI  
Int'l Cooperation Div., Int'l Affairs Dept.,  
Ministry of Agriculture, Forestry & Fisheries  
  
Ms. Masako AMAGASA  
Deputy Director of Home-Life Improvement Div.,  
Ministry of Agriculture, Forestry & Fisheries  
  
Ms. Yoko OYAMA  
Training Coordinator, Japan Int'l Cooperation Agency

Cooperation Requested to you

1. You are kindly requested to fill out the questionnaire and send it to the following address by November 5, 1988.

(The Philippines) JICA PHILIPPINES OFFICE  
P.O. Box 1229, Makati Central Post Office, Makati  
Metro Manila, Philippines

(Thailand) JICA THAILAND OFFICE  
1674/1, New Petchburi Road, Bangkok  
10310, Thailand

(Pakistan) JICA PAKISTAN OFFICE  
P.O. Box 1772, Islamabad, Pakistan

2. The visits of the team will be made to the organizations concerned according to the itinerary. The details on the visits will be informed to you directly or through your superior.

TENTATIVE ITINERARY OF THE FOLLOW-UP TEAM FOR EX-PARTICIPANTS OF  
HOME-LIFE IMPROVEMENT EXTENSION IN RURAL AREA COURSE, 1988

1. November 6(Sun) LV. Narita for Manila by JAL 741 (10:00)  
ARR. at Manila (13:40)
2. 7(Mon) \*Courtesy Call to Embassy of Japan & JICA office  
\*Courtesy Call to and Discussion at Nat'l  
Economic & Development Authority
3. 8(Tue) \*Courtesy Call to and Discussion at Agril.  
Extension Bureau, Ministry of Agriculture
4. 9(Wed) \*Seminar on the latest developments in the Home-  
Life Improvement Extension Services  
\* Dinner hosted by JICA
5. 10(Thur) \*Field Trip to regional centers for extension  
services
6. 11(Fri) \*Report to JICA office
7. 12(Sat) \*LV. Manila for Bangkok by TG 621 (15:00)  
\*ARR. at Bangkok (17:10)
8. 13(Sun) \*Free
9. 14(Mon) \*Courtesy Call to Embassy of Japan and JICA office  
\*Courtesy Call to and Discussion at Dept. of  
Technical and Economic Cooperation, Prime  
Minister's Office
10. 15(Tue) \*Courtesy Call to and Discussion at Rural  
Development Bureau, Ministry of Interior
11. 16(Wed) \*Seminar on the latest developments in the Home-  
Life Improvement Extension Service  
\* Dinner hosted by JICA
12. 17(Thur) \*Field Trip to regional centers for extension  
services
13. 18(Fri) \*Report to JICA office
14. 19(Sat) \*LV. Bangkok for Karachi by PK 763 (23:45)
15. 20(Sun) \*LV. Karachi for Islamabad by PK 300 (07:00)  
\*ARR. at Islamabad (08:55)  
\*Free

16. 21(Mon) \*Courtesy Call to Embassy of Japan and JICA office  
\*Courtesy Call to and Discussion at Ministry of Financial & Economic Affairs
17. 22(Tue) \*Move to Rahore  
\*Courtesy Call to and Discussion at University of Agriculture, Faisalabad  
\*Seminar on the latest developments in the Home-Life Improvement Extension Service  
\*Dinner hosted by JICA
18. 23(Wed) \*Move to Islamabad  
\*Field Trip to regional centers for Extension Services
19. 24(Thur) \*Report to JICA office
20. 25(Fri) \*Report-making and preparation for departure
21. 26(Sat) \*Free
22. 27(Sun) \*LV. Islamabad for Narita, Japan by PK 752 (07:00)  
\*ARR. at Beijing (15:20)  
\*LV. Beijing (16:35)  
\*ARR. at Narita, Japan (21:20)
-

Kindly give answers to the following questions in block letters or in typewriting.

1. ABOUT YOURSELF

- 1) Name : \_\_\_\_\_
- 2) Country : \_\_\_\_\_
- 3) Date of Birth : \_\_\_\_\_
- 4) Home address : \_\_\_\_\_
- 5) The year of the participation : \_\_\_\_\_
- 6) Course : \_\_\_\_\_
- 7) Occupation : \_\_\_\_\_

(1) Present Position

Name and Address of Employer :

\_\_\_\_\_  
\_\_\_\_\_

Your Post : \_\_\_\_\_

Since 19\_\_\_\_ To 19\_\_\_\_

(2) Previous Position : \_\_\_\_\_

From 19\_\_\_\_ To 19\_\_\_\_

(3) Position prior to the participation in the Course

Name and Address of Employer :

\_\_\_\_\_  
\_\_\_\_\_

Your Post : \_\_\_\_\_

11. ABOUT YOUR OCCUPATION

- 1) How are your present duties connected with the training you received in Japan?

\_\_\_\_\_  
\_\_\_\_\_  
\_\_\_\_\_  
\_\_\_\_\_  
\_\_\_\_\_

2) In what specific area are you making use of the results of the training course in Japan ?

---

---

---

---

---

---

---

---

3) How are you making use of the knowledge and experiences you acquired in Japan ? Please mark appropriate boxes.

I am utilizing the above experiences for :

- Lectures in school or training center
- Training courses and seminars
- Making reports and writing articles in technical literature
- On-the job training
- Others

4) Please briefly describe the duties of your service in your organization:

---

---

---

---

---

---

---

---

5) Please point out the problems, if any, you have encountered in performance of your official duties in your specialized field.

---

---

---

---

---

---

---

---

- 6) Please point out the difficulties, if any, you have experienced in your trials in solving them?

---

---

---

---

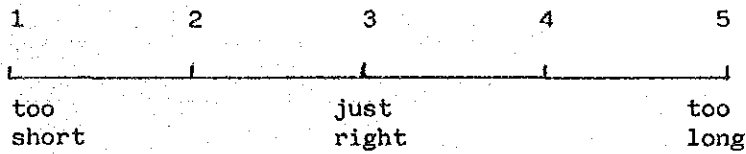
---

---

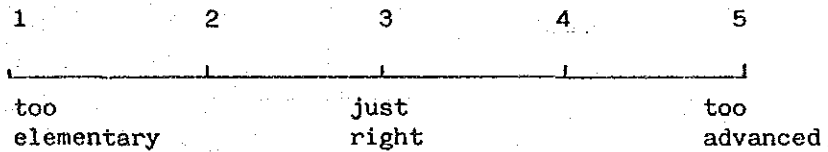
---

111. ABOUT THE TRAINING COURSE

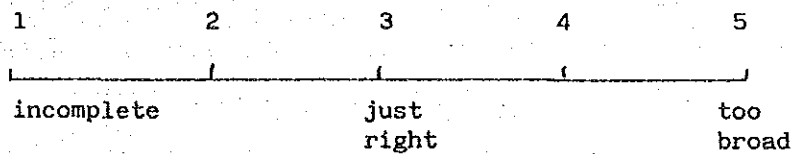
- 1) Duration



- 2) Level



- 3) Subjects



- 4) For the participant who answered "incomplete" or "too broad," please state the reason and the subjects you wanted to add or delete.

---

---

---

---

---

---

---



5) Please state two major items which you were interested in or found useful in the Course.

(1) \_\_\_\_\_

(2) \_\_\_\_\_

6) Could you write down how you think you could utilize the above stated knowledge in planning or fulfilling your duties?

\_\_\_\_\_  
\_\_\_\_\_  
\_\_\_\_\_  
\_\_\_\_\_  
\_\_\_\_\_

7) Were you satisfied with the field trip?

1	2	3	4	5
-----		-----		-----
not enough		just right		fully satisfied

8) For the participant who answered "not enough," please explain what the problems are and how you think they could be improved.

\_\_\_\_\_  
\_\_\_\_\_  
\_\_\_\_\_  
\_\_\_\_\_  
\_\_\_\_\_

9) Please give us any comments which you may consider useful in organizing the future Course.

\_\_\_\_\_  
\_\_\_\_\_  
\_\_\_\_\_

---

---

---

1V. QUESTION ON THE FOLLOW-UP ACTIVITIES

What kind of follow-up activities of the course do you request?

(Please tick off the appropriate items.)

- Sending literature and technical information
  - Technical consultation
  - Retraining of re-fresher training
  - Others, if any \_\_\_\_\_
- 
- 

V. QUESTION ON THE FRIENDSHIP ACTIVITIES AMONG THE EX-PARTICIPANTS

1) Do you have an alumni association in your country?

2) What kind of activities do you have every year?

3) Do you have any sort of contact with other ex-participants of the same course in and out of your country?

---

---

VI. OTHERS

- 1) Have you ever participated in a training course conducted by a foreign government other than Japanese Government?

YES

NO

- 2) For the participant who answered "YES," please give us the outline of the Course regarding to the following items.

A) Country \_\_\_\_\_

B) Duration from \_\_\_\_\_ to \_\_\_\_\_

C) Name of the course and course contents

\_\_\_\_\_  
\_\_\_\_\_  
\_\_\_\_\_  
\_\_\_\_\_  
\_\_\_\_\_  
\_\_\_\_\_  
\_\_\_\_\_

V11. Please provide us some additional information on the questions given in the preceding pages.

1) in relation to the question item 111-6 :

Are there any photos available which show the improvements successfully introduced to facilities, tools, clothing etc. due to your efforts in the application of the knowledge gained in Japan?

If so, please attach them to this questionnaire for our future reference.

2) in relation to the question item 111-9 :

Please mention any specific subject matters you consider indispensable to the implementation of rural development projects targetting rural women.

3) Please give all types of and brief descriptions of rural women's organizations existing in your service area or country.

4) Please state some of the problems and their countermeasures in connection with the agricultural labour hygiene.

Thank you for your kind cooperation.

### 3. 当該国訪問機関に提出した調査所見 (英文)

#### 1) フィリピン

Brief Report of the Follow-up Team for Ex-participants  
in the course on Home - Life Improvement Extension in  
Rural Area

#### 1. Introduction

It has been our great pleasure to be allowed the opportunity to visit the Philippines as a member of the technical follow - up team and to have a warm reunion with the ex-participants of the group training course on Home - Life Improvement Extension in Rural Area.

As part of the technical follow - up services of Japan International Cooperation Agency, the four - member team was dispatched to the Philippines for the first time since the initiation of the training program in 1980.

The total number of the participants accepted by JICA for this training course stands at 74 from 14 different countries in 1988. Among them, 12 participants were from the Philippines.

The following is a brief report based on our activities.

#### 2. Objectives of the Follow - up Team

The follow - up team aimed to evaluate the impact of the training in Japan, to assess the problems and needs in the participants' country as well as to improve JICA's future training programs by:

(1) visiting the agencies concerned of the ex-participants, the regional centers for extension services and farm families in the rural community.

(2) holding a seminar on the latest developments of the extension delivery system in Japan.

#### 3. Team Member

a. Mrs. Kinko Horike (Team Leader)

\* The Specialist in Extension Method on Rural Home-Life Improvement

\* Executive Director, Rural Home & Family Living Improvement Study Association.

b. Mrs. Masako Amagasa

\* Deputy Director of Home-Life Improvement Division, Agricultural Production Bureau, Ministry of Agriculture, Forestry & Fisheries (MAFF)

c. Mr. Yoshio Ishizaki

\* International Cooperation Division, International Affairs Department, Agricultural Economy Bureau, MAFF

d. Miss Yoko Oyama

\* Training Coordinator, Japan International Cooperation Agency (JICA)

#### 4 Team Activities

Please refer to the attached schedule and the name list of the people we met during our stay from Nov. 6 to Nov. 12, 1988.

#### 5. Findings and Opinions from Ex-participants and the people concerned

As a result of the analysis of the questionnaire, our discussion with the people involved as well as the field trip to the regional centers for extension services, our team wishes to give the following impression and comments:

(1) It was requested by the agencies concerned that the quota of participants allowed into the training course be increased.

(2) The ex-participants presented the follow-up team with some of their successful cases on the local application of the acquired skills in Japan, relating to clothing, dietary habits, housing, home management and extension methodology.

(3) The creation of a chapter - Bureau of Agril. Extension - Phillipine Japan fellows Association deeply impressed the team in the sense that it was functioning effectively as a sort of study group dealing with complex problems encountered in their daily performance of duties. Some of the problems of major concern mentioned are:

- a) adding values to principal agril. Products by means of appropriate processing technologies.
- b) developing strategies and devices for the improvement in labor hygiene of the women in Agriculture.
- c) enhancing health and nutrition of farm families.
- d) skills development geared toward augmenting farm income.

- e) expanding a national network of rural woman's groups as well as developing potential leadership capabilities of the woman in rural communities.

The skills and experiences gained through the training in Japan by the ex-participants are being shared with the other members of agril. Training Institute, the former Bureau of Agril. Extension. Consequently, their concerted and sustained efforts are meeting with wider success in solving the aforementioned problems.

- (4) A great deal of attention and efforts are being directed toward promoting integrated farms and value-added agriculture. The team felt that such a concentrated effort would enormously contribute to the acceleration of agricultural production and rural development in the Philippines.

## 6. Conclusions

- (1) We are most grateful to the ex-participants and the government officials concerned for their frank and constructive opinions regarding the improvement of the modus operandi of the training program on home extension in rural area.

- (2) Our trip to the Philippines was a rewarding as well as pleasant experience due to the fact that the training course on Home-Life Improvement Extension in Rural Area received much recognition from the people so dedicated to the service of their country in order to usher in a new era in the Philippines.

- (3) In relation to the item 5- (4) mentioned above, it is suggested that the potential abilities of woman be utilized to the fullest extent. This seems to hold a key to the achievement of stable progress both in the regional agriculture and in rural communities.

- (4) To further develop women's abilities, it is hoped that consultative guidance and training activities will be strengthened in the area of agricultural technology, farm and home management.

- (5) With a view to enhancing the women's role in agricultural development, it is also recommended that rural women are made aware of their common problems and also the availability of local resources in their community---human resources, Agricultural products, forests etc---through, for example, joint preparation of a simple, illustrated map based on the explanation of a community. Such a cooperative action will nurture a sense of solidarity as a member of a volunteer group or community, leading to the sophistication of their skills in resolving more complex problems for better family living.

While the role of women in advancing high-value added agriculture needs to be further examined, it is hoped that we can share with you our experience in developing rural women's potential abilities through our training course on Home - Life Improvement Extension in Rural Area.

(6) Lastly, we would like to express our heartfelt gratitude to all the people we met in the Philippines for their kind cooperation and assistance.

The Philippines

November 12, 1988

堀家 欣子

Ms. Kinko Horike

Team Leader,  
Follow-up Team for Ex-participants  
in Home - Life Improvement Extension  
in Rural Area.



FOUR-MEMBER TECHNICAL FOLLOW-UP TEAM  
FOR EX-PARTICIPANTS  
HOME-LIFE IMPROVEMENT EXTENSION IN RURAL AREA COURSE

Ms. Kinko HORIKE  
Mr. Yoshio ISHIZAKI  
Ms. Masako ANAGASA  
Ms. Yoko OYANA

SCHEDULE

Nov. 6 (Sun.)		Arrive Manila
7 (Mon.)		Courtesy Call/Embassy of Japan
		Courtesy Call/JICA Phil. Office
	2:00 p.m.	Courtesy Call/Special Committee on Scholarship (NEDA)
8 (Tue.)	9.30 a.m.	Courtesy Call/ Agricultural Training Institute (ATI) (Formerly Bureau of Agricultural Extension/ BAEx)
	2.30 p.m.	Courtesy Call/Department of Agrarian Reform (DAR)
9 (Wed.)	1:00 p.m.	Discussion Meeting with the ex-participants based on the questionnaire filled out by them.
	3:00 p.m.	Seminar on the latest developments in the Home-Life Improvement Extension Services
	5.00 p.m.	Sulo Hotel, Matalino St., Quezon City (Followed by a Cocktails/ Friendship Party)
10 (Thu.)		Field trip to regional centers for extension services in Los Bonos, Laguna (To be arranged by the Agricultural Training Institute (ATI))
11 (Fri.)		
12 (Sat.)		Leave Manila for Bangkok

The Record of Attendance

November 7 (Monday) - November 10 (Thursday)

November 7, 1988 (Monday)

- |   |  |
|---|--|
| 1. Mr. K. Oshima                            | Deputy Resident Representative<br>Philippine Office JICA                       |
| 2. Mr. N. Hayashida                         | First Secretary<br>Embassy of Japan  |
| 3. Mr. G.C. Mantanes<br>and 1 other officer | Scholarship Affairs Specialist<br>Special Committee on Scholarships<br>N E D A |

November 8, 1988 (Tuesday)

- |                                 |   |
|---------------------------------|---|
| 1. Mr. M.O. Ordillo             | Assistant Director<br>Agricultural Training Institute<br>D A    |
| 2. Mr. P.T. Tamesis             | Assistant Director<br>A T I<br>D A                              |
| 3. Ms. R. Icarro                | Chief, Planning, Monitoring and<br>Evaluation Division<br>A T I |
| 4. Mr. P.W. Resma               | Chief Specialist Services Div.<br>A T I                         |
| 5. Ms. S.U. Boter               | Assistance Chief, S S D   |
| 6. Ms. A. Rivera                | Agricultural Extension Specialist II<br>S S D                   |
| 7. Ms. P. Jimenez               | Agricultural Extension Specialist II<br>S S D                   |
| 8. Ms. Rosalina Olan (1981)     |   |
| 9. Ms. Luisa Bengco (1984)      |   |
| 10. Ms. Alicia Sarmiento (1985) |   |
| 11. Ms. Benilda Labayog (1986)  |   |
| 12. Ms. Delia Soriano (1988)    |   |

- |                              |  |
|------------------------------|--|
| 13. Mr. P. Juico             | Secretary<br>Department of Agrarian Reform                                   |
| 14. Mr. V.G.J. Bulatao       | Assistant Secretary for<br>Support Services<br>Department of Agrarian Reform |
| 15. Mr. J.Z. Gragida         | Bureau of Agrarian Reform<br>Information and Education<br>D A R              |
| 16. Ms. N.N. Capinpin (1980) | Provincial Agrarian Reform Officer<br>D A R                                  |
| 17. Ms. M. Tiambeng (1987)   | Agrarian Reform Officer<br>D A R   |

November 9, 1988 (Wednesday)

- |                                 |   |
|---------------------------------|---|
| 1. Mr. S.C. Serrano             | Director<br>A T I     D A                     |
| 2. Mr. A. Iblefonso Rosario     | Assistant Director<br>A T I                   |
| 3. Mr. M.O. Ordillo             |   |
| 4. Mr. P.T. Tamesis             |   |
| 5. Ms. R. Icarro                |   |
| 6. Mr. P.W. Resma               |   |
| 7. Ms. S.U. Boter               |   |
| 8. Ms. A. Julian                | Agricultural Extension Specialist II<br>S S D |
| 9. Ms. Rosalina Olan (1981)     |   |
| 10. Ms. Clarita Salgado (1982)  |   |
| 11. Ms. Luisa Bengco (1984)     |   |
| 12. Ms. Alicia Sarmiento (1985) |   |
| 13. Ms. Benilda Labayog (1986)  |   |
| 14. Ms. Delia Soriano (1988)    |   |

November 10, 1988 (Thursday)

1. Ms. E. A. Caoili  
Los Baños, Laguna  
Municipal Agricultural Officer  
D A
2. Ms. Corazon F. Azucena  
and 2 other officers  
Director  
Agricultural Training Center
3. Mr. A.L.C. Meneses Jr.  
Municipal Mayor of Los Baños,  
Laguna
4. Mr. R. Liwag
5. Mr. L.D. Regong Jr.  
and 30 other officers  
Provincial Agricultural Officer  
of Laguna
6. Ms. V.G. Aquino  
President of Rural Improvement Club,  
Los Baños Council
7. Ms. Rosalina Olan (1981)
8. Ms. Clarita Salgado (1982)
9. Ms. Luisa Bengco (1984)
10. Ms. Alicia Sarmiento (1985)
11. Ms. Benilda Labayog (1986)
12. Ms. Delia Soriano (1988)

Brief Report of the Follow-up Team for Ex-participants in the course on Home - Life Improvement Extension in Rural Area.

1. Introduction

It has been our great pleasure to be allowed the opportunity to visit Thailand as a member of the technical follow - up team and to have a warm reunion with the ex-participants of the group training course on Home Life Improvement Extension in Rural Area.

As part of the technical follow-up services for Japan International Cooperation Agency, the four - member team was dispatched to the Thailand for the first time since the initiation of the training program in 1980.

The total number of the participants accepted by JICA for this training course stands at 74 from 14 different countries in 1988. Among them, 9 participants were from Thailand.

The following is a brief report based on our activities.

2. Objectives of the Follow - up Team

The follow - up team aimed to evaluate the impact of the training in Japan, to assess the problems and needs in the participants' country as well as to improve JICA's future training programs by:

(1) Visiting the agencies concerned of the ex-participants, the regional centers for extension services and farm families in the rural community.

(2) holding a seminar on the latest developments of the extension delivery system in Japan.

3. Team Member

a. Mrs. Kinko Horike (Team Leader)

\* The Specialist in Extension Method on Rural Home-Life Improvement

\* Executive Director, Rural Home & Family Living Improvement Study Association.

b. Mrs. Masako Amagasa

\* Deputy Director of Home-Life Improvement Division, Agricultural Production Bureau, Ministry of Agriculture, Forestry & Fisheries (MAFF).

c. Mr. Yoshio Ishizaki

\* International Cooperation Division, International Affairs Department, Agricultural Economy Bureau, MAFF

d. Miss Yoko Oyama

\* Training Coordinator, Japan International Cooperation Agency (JICA).

#### 4. Team Activities

Please refer to the attached schedule and the name list of the people we met during our stay from Nov. 12 to Nov. 19, 1988.

#### 5. Finding and opinion from ex-participants and the people concerned.

As a result of the analysis of the questionnaire, our discussion with the people involved as well as the field trip to Saraburi Province, our team wishes to give the following impression and comments:

- (1) It was requested by the agencies concerned that the quota of participants allowed into the training course be increased.
- (2) The ex-participants presented the follow-up team with some of their successful cases on the local application of the acquired skills in Japan, relating to clothing, dietary habits, housing, home management and extension methodology.
- (3) The ex-participants were addressing themselves to the complex problems arising from the daily performance of their duties. Some of the problems of major concern mentioned are:
  - a) adding values to principal agricultural products by means of appropriate processing technologies.
  - b) developing strategies and devices for the improvement in labour hygiene of the women in agriculture.
  - c) enhancing health and nutrition of farm families.
  - d) skills development geared toward augmenting farm income.
  - e) organizing rural women into groups with a view to developing their potential leadership capabilities.

(4) a great deal of attention and efforts are being directed toward promoting integrated farms and value-added agriculture. The team felt that such concentrated effort would result in further acceleration of agricultural production and rural development in Thailand.

(5) It was stressed in the office of Accelerated Rural Development, Ministry of Interior, that in order to ensure the settlement development through comprehensive regional development programs, the importance should be attached to the selection of appropriate location - specific technologies as well as vocational training designed for income generation.

In this connection, agencies concerned are joining hands with each other to improve the problem - solving ability of rural women, thus realizing their full participation in the progress of agriculture, farm and community life.

In view of this, it is confirmed that the group training course on Home-Life improvement Extension in Rural Area has got something to offer to the prospective participants working for the office of Accelerated Rural Development, ministry of Interior.

(6) We visited four governmental organizations undertaking various projects meant for the uplift of rural women. Each organization has staff members charged with achieving better family living in rural area.

The socio-economic conditions of target groups and the nature of projects seems to determine the division of responsibilities among these four organizations. In working toward the common goal, there exists a close linkage among the organizations.

It was found at the Agricultural Extension Dept. that there were 706 Agricultural extension offices throughout the country with at least one home economist assigned to each office.

Though in the past, we received no participant from the Agricultural Extension Dept., Ministry of Agriculture and cooperative, the possibility of inviting its staff members to Japan should be discussed in future.

## 6. Conclusions

- (1) We are most grateful to the ex-participants and the government officials concerned for their frank and constructive opinions regarding the improvement of the modus operandi of the training program on home extension in rural area.
- (2) Our trip to Thailand was a rewarding as well as pleasant experience due to the fact that the training course on Home-Life Improvement Extension in Rural Area received much recognition from the people so dedicated to the service of their country in order to user in a new era in Thailand.
- (3) In relation to the item 5 - (4) mentioned above, it is suggested that the potential abilities of woman be utilized to the fullest extent. This seems to hold a key to the achievement of stable progress both in the regional agriculture and in rural communities.
- (4) To further develop women's abilities, it is hoped that consultative guidance and training activities will be strengthened in the area of agricultural technology, farm and home management.
- (5) It is hoped that we can share with you our experience in developing rural women's potential abilities through our training course on Home - Life Improvement Extension in Rural Area.
- (6) Lastly, we would like to express our heartfelt gratitude to all the people we met in Thailand for their kind cooperation and assistance.

Thailand

November 18, 1988

堀家 欣子

---

Ms. Kinko Horike

Team Leader,  
Follow-up Team for Ex-participants  
in Home - Life Improvement Extension  
in Rural Area.



THE FOLLOW-UP TEAM FOR EX-PARTICIPANTS OF  
HOME-LIFE IMPROVEMENT EXTENSION IN RURAL AREA COURSE  
NOV. 12 (SAT) - NOV. 20 (SUN) 1988

- |   |   |
|---|---|
| November 12, 1988 (Sat)<br>05:10p.m         | - Arrive at Bangkok by 621<br>- Check in at Landmark Hotel  |
| November 13, 1988 (Sun)                     | - Free  |
| November 14, 1988 (Mon)                     | - Japanese Embassy<br>- JICA Office   |
| 01.00 p.m. 02.15pm                          | - Department of Technical<br>and Economic Cooperation   |
| 03:00 p.m.                                  | - Social Development Div.<br>ESCAP  |
| November 15, 1988 (Tue)<br>07:15am          | - Field Trip to Community<br>Development Technical Assistant<br>Center (Region 1 Saraburi)<br>Miss Apinya Pattamanuch.<br>ex-participant in 1988) |
| November 16, 1988 (Wed)<br>01:00-05:00 p.m. | - Seminar on the latest<br>developments in the Home-Life<br>Improvement Extension Service   |
| 06.30 p.m.                                  | - Dinner at Tamnak Thai Restaurant<br>hosted by JICA  |
| November 17, 1988 (Thur)<br>09:30 a.m.      | Accelerated Rural Development<br>Office, Ministry of Interior<br>(Ms. Kanokporn Tippayamontri<br>ex-participant in 1988)                          |
| 02:30 p.m.                                  | - Dept. of Agricultural extension,<br>Ministry of Agriculture<br>and Cooperative  |
| November 18, 1988 (Fri)                     | - Report to JICA Office   |
| November 19, 1988 (Sat).                    | - Free  |
| November 20, 1988 (Sun)<br>03:00 a.m.       | - Leave Bangkok for Karachi<br>by PK 763  |

The Record of Attendance

Nov. 14 (Mon) - Nov 17 (Thu) 1988

Nov 14 (Mon) 1988

- Mr. B. Saito  
Resident Representative  
Thailand office JICA
- Ms. Hara  
Assistant Representative  
Thailand Office JICA
- Mr. P. Soontornpipit  
Deputy Director - General  
D. T. E. C.
- Mr. K. Piampongsant  
Chief, Japan Subdivision  
External Cooperation Div I  
D. T. E. C.
- Ms. Yuniko Tanaka  
Social Affairs Officer  
Women in Development Section  
Social Development Div. ESCAP

Nov. 15 (Tue) 1988

- Mr. A. Waipohkee  
Director  
Community Development Technical  
Assistance Center Region I  
Community Development Department  
Ministry of Interior
- Ms. N. Poomvisate  
Chief of Educational Service Section,  
Community Development Technical  
Assistance Center Region 1  
and 2 other officers
- Mr. T. Chawanavel  
Director  
The Central and Northern Land  
Settlement Development Center  
Department of Public Welfare  
Ministry of Interior
- Mr. T. Koomprayoon  
Assistant Director  
The Central and Northern Land  
Settlement Development Center  
D. P. W.

Ms. V. Kittiwattianawong  
Assistant Director  
The Central and Northern Land  
Settlement Development Center  
D. P. W.

Ms. C. SaeTang (1980)

Ms. A. Pattamanuch (1988)

LA. U.S.A. Peace Corps  
Vist to a child Care Center  
Saraburi / Self-help Land Settle office  
The Central and Northern Land  
Settlement Development Center  
D. P. W.

Nov. 16 (Wed) 1988

Ms. C. SaeTang (1980)

Ms. P. Chaturapatra (1981)

Ms. S. Yusap (1983)

Ms. P. Devahusdin (1987)

Ms. K. Tippayamontri (1988)

Ms. A. Pattamanuch (1988)

Nov 17 (Thu) 1988

Mr. C.V.Poonsawat  
Secretary General  
Accelerated Rural Development M.I.

Mr. S. Wattana  
Director  
Research and Evaluation Division  
Office of Accelerated Rural Development

Ms. P. Chaturapatra (1981)

Ms. K. Tippayamontri (1988)

Ms. P. Rattanawiboon  
Chief  
Farm Home improvement Sub - Division  
Agricultural Administrative Development  
Division  
Department of Agricultural Extension  
Ministry of Agriculture and Cooperative

Ms. P. Boonyaguabul  
Farm Home improvement Sub - Division  
Agricultural Administrative Development  
Division  
D. O. A. E.

Mr. U. Khomolpit  
Training Division  
D. O. A. E.

Mr. C. Shimpalee  
Crop Promotion Division  
D. O. A. E.

Ms. S. Phongprapai  
Planning and Special Projects Division  
D. O. A. E.

### 3) パキスタン

## BRIEF REPORT OF THE FOLLOW-UP TEAM FOR EX-PARTICIPANTS IN THE COURSE ON HOME-LIFE IMPROVEMENT EXTENSION IN RURAL AREA

### 1. Introduction

It has been our great pleasure to be allowed the opportunity to visit Pakistan as a member of the technical follow-up team and to have a warm reunion with the ex-participants of the group training course on Home-Life Improvement Extension in Rural Area.

As part of the technical follow-up services for Japan International Cooperation Agency, the four-member team was dispatched to Pakistan for the first time since the initiation of the training program in 1980.

The total number of the participants accepted by JICA for this training course stands at 74 people from 14 different countries in 1988. Among them, 7 participants were from Pakistan.

The following is a brief report based on our activities.

### 2. Objectives of the Follow-Up Team

The follow-up team aimed to evaluate the impact of the training in Japan, to assess the problems and needs in the participant's country as well as to improve JICA's future training programs by:

- (1) Visiting the agencies concerned of the ex-participants, the regional centers for extension services and farm families in rural communities.
- (2) Holding a seminar on the latest developments of the extension delivery system in Japan.

### 3. Team Member

#### a. Mrs. Kinko Horike (Team Leader)

The Specialist in Extension Method on Rural Home-Life Improvement;  
Executive Director, Rural Home & Family Living Improvement  
Study Association

#### b. Mrs. Masako Amagasa

Deputy Director of Home-Life Improvement Division,  
Agricultural Production Bureau, Ministry of Agriculture,  
Forestry & Fisheries (MAFF)

c. Mr. Yoshio Ishizaki

International Cooperation Division, International Affairs  
Department, Agricultural Economy Bureau, MAFF

d. Miss Yoko Oyama

Training Coordinator, Japan International Cooperation Agency (JICA)

#### 4. Team Activities

Please refer to the attached schedule and the name list of the people we met during our stay from Nov. 20 to Nov. 26, 1988.

#### 5. Finding and opinion from ex-participants and the people concerned

As a result of the analysis of the questionnaire filled out by the ex-participants and our discussion with the people involved, our team wishes to give the following impression and comments:

- (1) At the University of Agriculture, Faisalbad, the dispatch of Japanese experts was requested in order to upgrade the present diploma course on Rural Home Economics.
- (2) It was generally noted that some of the efforts made by the ex-participants were meeting with success in their local application of the acquired skills and techniques through the training in Japan, in the areas of clothing, dietary habits, housing, home management and extension methodology.
- (3) The ex-participants are effectively dealing with complex problems and issues encountered in their daily execution of duties. Some of the problems mentioned were:
  - a) Intensified efforts to develop an institutional framework as well as a curriculum necessary to upgrade one-year diploma course to four-year degree course on Rural Home Economics (University of Agriculture, Faisalabad)
  - b) Strengthened research activities on labor problems related to the women in agriculture.
  - c) Study on the effective utilization of agric. produce for better family nutrition and on processing technology.
  - d) Extension activities targetting rural women.
- (4) It was found that the Women's Division-Cabinet Secretariat was charged with the responsibility of implementing various measures to further uplift the status of women in Pakistan. Some of the projects mentioned in the field of agriculture, forestry and fisheries are:

- a) Conducting training programs tailored to specific needs of women: one of the examples cited was the training of assistant livestock keepers.
- b) Advancing projects designed to establish appropriate technology to generate solar energy and biogas for domestic use.
- c) Projects on the preservation technology for fruit and vegetables.

Based on the discussion at the Women's Division, it was confirmed that the development of the small scale appropriate technology is being needed in the interest of tapping the potential abilities of rural women to realize better family living .

## 6. Conclusions

- (1) We are most grateful to the ex-participants and the government officials concerned for their frank and constructive opinions regarding the improvement of the modus operandi of the training program on Home Extension in Rural Area.
- (2) Our trip to Pakistan was a rewarding as well as pleasant experience due to the fact that the training course on Home-Life Improvement Extension in Rural Area received much recognition from the people so dedicated to the service of their country in order to usher in a new era in Pakistan.
- (3) Recognizing the vital role of home-life improvement extension work in achieving stable progress in agriculture and farming communities, socially active women in Pakistan are at pains to initiate various projects involving women at large. In effect, ex-participants, together with many others, form the the core of such movement.
- (4) It is hoped that we can share with you our experience in the development of rural women's potential and their social skills through our training course on Home-Life Improvement Extension in Rural Area.
- (5) Lastly, we would like to express our heartfelt gratitude to all the people we met in Pakistan for their kind cooperation and assistance.

Pakistan

November 26, 1988

堀家 欣子

---

Ms. Kinko Horike

Team Leader,  
Follow-up Team for Ex-participants  
in Home-Life Improvement Extension  
in Rural Area



FOLLOW UP TEAM FOR  
HOME-LIFE IMPROVEMENT EXTENSION IN RURAL AREA

NOV. 20 (SUN). - NOV. 27 (SUN) 1988

88/11/20 (SUN)

Arr. Karachi by PK-763

Arr. Islamabad

Check-in Holiday Inn,  
Islamabad

11/21 (MON)

09:00 Meeting at JICA

H.54, ST.88 G-6/3, ISLAMABAD

14:00 Courtesy Call to  
Embassy of Japan

15:00 Courtesy Call to  
Economic Affairs division

Mr. Fida Hussain, Deputy  
Secretary, Room No. 313  
Pak Secretariat, Block-C

11/22 (Tue)

05:45 Dep. for Airport

Check-out from Holiday Inn

07:00 Dep. for Lahore by PK-385

07:50 Arr. Lahore

08:30 Dep. for Faisalabad by road

11:30 Arr. Faisalabad

Check-in Serena Lodges &  
Hotels, Faisalabad

12:30-14:00 Courtesy Call to  
Vice Chancellor

University of Agriculture,  
Faisalabad

14:30-15:30 Meeting with Ex-Participants

Seminar Room  
University of Agriculture  
Faisalabad

15:30-17:00 Seminar on the Latest  
Development on Home-Life  
Improvement Extension  
Service

Seminar Room  
University of Agriculture  
Faisalabad

19:00	Dinner hosted by JICA for the participants of the Seminar	Serena Lodges & Hotels, Faisalabad
<u>11/23 (Wed)</u>		
	Dep. for Lahore	Check-out Serena Lodges & Hotels, Faisalabad
18:50	Dep. for Islamabad by PK-382	
19:40	Arr. Islamabad	Check-in Holiday Inn Islamabad
<u>11/24 (Thu)</u>		
12:30	Courtesy Call to Womens' Division	Ms. A. Riaz-ud-din Secretary of Womens' Division, Cabinet Secretariat
15:15	Courtesy Call to National Agricultural Research Council (Ministry of Agriculture and Food)	Mr. K. M. Chaudhry Director of Agricultural Extension Division.
<u>11/25 (Fri)</u>		
	Report making and preparation for departure	
<u>11/26 (Sat)</u>		
	Free	
<u>11/27 (Sun)</u>		
04:15	Dep. for the Airport	Check-out Holiday Inn
07:35	Dep. for Tokyo by PK-752	

THE RECORD OF ATTENDANCE  
NOV. 21 (MON.) - NOV. 24 (THU) 1988

Nov. 21 (Mon) 1988

Mr. K. Tanigawa  
Resident Representative  
J.I.C.A.

Mr. M. Togawa  
Assistant Resident Representative  
J.I.C.A.

Mr. J. Kobayashi  
Minister - Counsellor  
Embassy of Japan

Mr. S. Karimata  
First Secretary  
Embassy of Japan

Mr. F. Hussain  
Deputy Secretary  
Economic Affairs Div.  
Ministry of Finance and  
Economic Affairs

Nov. 24 (Thu) 1988

Mrs. A. Riaz-ud-din  
Secretary,  
Women's Div. Cabinet Secretariat

Mr. K. M. Chaudhry  
Director, Agricultural Extension Div.,  
National Agricultural Research Center,  
Ministry of Agriculture and Food

Mr. A. Khan  
Assistant Agricultural Engineer  
Agricultural Extension Div.,  
N.A.R.C.

Dr. A. Qureshi  
Principal Scientific Officer,  
Tissue Culture Dep.  
N.A.R.C.

LIST OF THE PARTICIPANTS

S.NO. NAME AND DESIGNATION OF THE PARTICIPANTS

1. Dr. Abdul Rehman, Vice Chancellor, Agriculture University.
2. Mr. Sheikh Mohammad Akram, Registrar, Agriculture University.
3. Dr. Agha Sajjad Hyder, Director, Division of Education and Extension, Agriculture University.
4. Dr. Ghulam Subhani Khan, Associate Professor, Division of Education and Extension, Agriculture University.
5. Dr. Saeed Ahmad Khan, Associate Professor, Division of Education and Extension, Agriculture University.
6. Mr. Malik Niaz Hussain, Assistant Professor, Division of Education and Extension, Agriculture University.
7. Dr. Abrar Hussain Gilani, Department of Nutrition, Agriculture University.
8. Dr. Raja Akram, Professor, Department of Livestock, Agriculture University.
9. Ms. Fakhra, Teacher, Airport Security Force, Faisalabad.
10. Ms. Alahi, Ticketing Manager, PIA, Faisalabad.
11. Ms. Shanaz, Lecturer, Zoology Department, Agriculture University.
12. Ms. Barjees Hayat, Parasitology Department, Agriculture University.
13. Ms. Rashida Azher, Assistant Professor, Department of Rural Sociology and Agriculture Economics, Agriculture University.
14. Ms. Khizra, Lecturer, Department of Rural Sociology and Agriculture Economics, Agriculture University.
15. Ms. Razia Ali, Lecturer, Department of Rural Sociology and Agriculture Economics, Agriculture University.
16. Ms. Kishwar Ijaz, Assistant Professor, Department of Rural Sociology and Agriculture Economics, Agriculture University.
17. Dr. Nawaz, Chairman, Physiology Deptt., Agriculture University.
18. Ms. Rukhshanda Nawaz, Assistant Professor, Agriculture University.
19. Mr. Ikhtlaq, Lecturer, Agriculture University.

20. Ms. Najma Ikhtlaq, Assistant Professor, Chemistry Department, Agriculture University.
21. Ms. Zubaida Perveen, Assistant Professor, Biochemistry Department, Agriculture University.
22. Dr. Kausar Almas, Ex-Participant
23. Ms. Nighat Bhatti, Ex-Participant.
24. Ms. Zubaida Khatun, Ex-Participant.
25. Ms. Rehana Baqai, Ex-Participant.
26. Ms. Mukhtar Jehan, Ex-Participant.
27. Ms. Ayesha Margaret Siddiqui, Ex-Participant.
28. Ms. Nosheena Salim, Ex-Participant.
29. Mr. S. Abdul Hamid.

JAPAN INTERNATIONAL COOPERATION AGENCY (JICA)

P. O. BOX 216 MITSUI BLDG  
2-1, NISHI-SHINJUKU, SHINJUKU-KU TOKYO  
160 JAPAN

---

Date: , 1988

Dear Sir,

I am writing to you in the hope that you have been actively engaged in your work in excellent health and high spirits since you returned after the completion of the training in Japan.

It is a pleasure for us to inform you that the Japan Int'l Cooperation Agency is making utmost efforts to expand and improve its technical training programs each year. We have accepted a total of 67,098 participants from overseas countries during the period from 1954 to March 1988. In fiscal 1988, we plan to accept about 4,800 participants and conduct 250 group training courses and seminars.

More and more efforts are being made to comply with the increasing number of requests for the acceptance of overseas trainees as well as to introduce further improvements on the programing of training courses.

It is, therefore, of great importance for us to know how and to what extent the experiences and skills you acquired in Japan are being utilized at your workplace and to seek your opinions and suggestions for the enhancement of the training effect.

What is equally important, we believe, is to refresh and upgrade the knowledge and skills gained in Japan by providing ex-participants with information on the latest developments in their respective fields of activities.

With a view to achieving these goals, JICA dispatches technical follow-up teams to participating countries every year. This year JICA has decided to send to this country a follow-up team in the field of Home-Life Improvement Extension Service. The tentative itinerary and the questionnaire are enclosed herewith.

JAPAN INTERNATIONAL COOPERATION AGENCY (JICA)

P.O. BOX 216 MITSUI BLDG  
2-1, NISHI-SHINJUKU, SHINJUKU-KU TOKYO  
160 JAPAN

---

It would be highly appreciated if you could extend your kind cooperation to our visiting team during their stay. The team members are looking forward to a warm reunion with ex-participants.

Finally, let us offer you our sincere prayers for your continued health and success with your work.

Yours sincerely,

---

Resident Representative  
Japan International Cooperation Agency  
in  
The Philippines

JAPAN INTERNATIONAL COOPERATION AGENCY (JICA)

P. O. BOX 216 MITSUI BLDG  
2-1, NISHI-SHINJUKU, SHINJUKU-KU TOKYO  
160 JAPAN

---

It would be highly appreciated if you could extend your kind cooperation to our visiting team during their stay. The team members are looking forward to a warm reunion with ex-participants.

Finally, let us offer you our sincere prayers for your continued health and success with your work.

Yours sincerely,

---

Resident Representative  
Japan International Cooperation Agency  
in  
Thailand



#### 4. 統計資料

##### 訪問国の概要

	フィリピン共和国	タイ王国	パキスタン回教共和国
独立年月日	1946年7月 (旧宗主国アメリカ)	———	1947年8月 (旧宗主国イギリス)
首都	マニラ 1728千人 MANILA	バンコック 4697千人 BANGKOK	イスラマバード 204千人 ISLAMABAD
面積	300千平方キロ (日本より少し小さい)	514千平方キロ (日本の約1.4倍)	804千平方キロ (日本の約2倍)
総人口	48,098千人 (1980年) 平均人口増加 2.3% 人口密度 185 (日本の約2分の1強)	44,825千人 (1980年) 平均人口増加 1.9% 人口密度 102 (日本の約3分の1)	84,254千人 (1980年) 平均人口増加 3.0% 人口密度 125 (日本の約3分の1) 次の地区を除く ジャム・カシミール、ジュナガード、マナバダール、ギルギット、バルチスタン
言語別人口	セブアノ語 24.4% タガログ語 23.8% イロカノ語 11.1% イフガオ語 10.0% ビコール語 7.0% サマール・レイテ語 4.6% バンバンガ語 3.4% バンガシナン語 2.3% (国際統計) 主要言語 UN「人口統計年鑑1986年」 ビリビノ語、英語	タイ語 94.4% クメール語 2.6% マレー語 1.9% 中国語 0.2% (国際統計) タイ語	パンジャービー語 55% スインディー語 バローチー語 5% パシュート語 (パターン族) その他 ウルドゥ語、英語
主な宗教	キリスト教	佛 教	イスラム教
気 候	海洋性熱帯気候 マニラ 年間最高 29.4℃ 最低 25.3℃ 最高降水量 435mm 最低 " 5mm	熱帯性気候 バンコック 年間最高33.7℃ 最低24.7℃ 年間雨量1471mm	平均気温 年間降水量 (気候の地域差が大きい) ラホール 24℃ 492mm (標高 214m) カラーチ 26℃ 204mm (標高 4m) クエッタ 15℃ 195mm (標高 1587m) 雨が少ない
元 首	フィリピン アキノ大統領 (1986年) AQUINO	タイ プーミポン王 (1946年即位) PHUMIBUL ADULYADEJ 1987年国王は60才 プレム首相 PREM TINSLANONDA	パキスタン グーラム・イザーク大統領 GHULAM ISHAQ KHAN (72才) ブット首相 1988年12月 BHUTTO
通貨 為替レート 1米ドル当り	ペソ 20ペソ (1988年11月)	バーツ 24.38バーツ (1988年11月)	パキスタンルピー 18.4ルピー (1988年11月)
主生産物 (FAO) 3か国の比較で①② ③をつけた (1976-1985年) OECD食料消費統計	米②, とうもろこし①, かんしょ①, コーヒー, 粗糖①, 葉たばこ③, 天然ゴム②, 豚	米①, とうもろこし①, かんしょ②, 玉葱②, 粗糖②, 葉たばこ①, 天然ゴム①, 鶏①	米③, 小麦, 玉葱①, オレンジ, 粗糖③, 綿花, 葉たばこ②, 鶏②, 牛, 羊, 羊毛, 原皮
国内総生産 1985年 100万米ドル 1人当国民所得 米ドル	32787 600	38343 743	33136 345

貿易輸出品目	果実及びナッツ (輸入品は3か国とも統計に出る程の物はない。)	米①, とうもろこし, 大豆, 野菜類, 天然ゴム, 錫	米②, 絹, 綿, 綿織物
貿易指数 1980年=100	1986 一般輸入 80 一般輸出 115	1986 102 115	1986 112 146
出生率 死亡率 乳児死亡率 平均寿命 0才児の平均余命 UN「人口統計年鑑」	フィリピン (1985年国連推計) 3.33% ( " ) 0.84% ( " ) 5.06% (日本の出生率 1.14%) (1986年) 男 女 (1980~85年) 60.2歳 63.7歳 (日本 75.6歳 81.4歳) 1985, 86年	タイ (左に同じ) 2.8% 0.8% 4.75% (日本の死亡率 0.62%) (1986年) 男 女 (1980~85年) 60.7歳 64.8歳	パキスタン (左に同じ) 4.3% 1.53% 12% (日本の乳児死亡率 0.52%) (1986年) 男 女 (1980~85年) 51.0歳 49.0歳
産業従事上の地位別 人口農村漁業のみ	(1985年10~12月) 千人 千人 a)	(1984年8月) 千人 千人 a)	(1984年~1985年) 千人 a)
総数 業主 雇用者 家族従業者	男 7,434 } 10,085 47% 女 2,651 } 男 4,311 } 5,029 50% 女 718 } 男 1,719 } 2,255 22% 女 536 } 男 1,404 } 2,801 28% 女 1,397 } (上記a) 印の総数の%は経済活動人口を100としている)	9,369 } 18,130 68% 8,761 } 4,774 } 5,943 32% 1,169 } 876 } 1,676 9.2% 800 } 3,719 } 10,510 58% 6,791 }	— } 14,054 49% — } (日本8%) — } 6,651 47% — } 1,568 11% — } 5,835 42%
失業者	男 644 } 1,316 6% 女 672 } 約2分の1は就業経験なし (上記a) 印の数字は経済活動人口総数に対する%である)	男 278 } 611 2.2% 女 333 }	男 1,034 } 1,074 3.7% 女 40 } (日本0.3%)
	日本 1987年農村漁業 千人 男 千人 女 総数 4,890 } 2,560 業主男 1,870 } 2,270 46% 370 男 a) 8% } " 女 400 } 女 2,330 } 雇用者男 320 } 440 9% 1,810 女 " 女 120 }	家族従事者 千人 2,180 45%	

主として参考とした本①「世界の国一覽表」1980年版 外務省情報文化局編集

②「国際統計要覽」1988年版 総務庁統計局編

年齢別人口

尚年齢による最近のセンサス又は推計による現在人口を示す。なお、現在人口及び常住人口については、2表題注参照。

(1,000人)

年 齢	ア		ジ		ア		イ	
	日本 <sup>1)</sup>		○パキスタン		○フィリピン <sup>1)</sup>		○タイ	
	(1987推計)		(1981センサス)		(1984推計)		(1985推計)	
	男	女	男	女	男	女	男	女
総 数	60,091	62,173	44,233	40,021	26,697	26,473	25,789	25,512
0	701	664	1,208	1,222	792	754	3,203	3,068
1~4	2,970	2,827	5,126	5,392	3,070	2,942		
5~9	4,083	3,885	7,003	6,482	3,525	3,401	3,209	3,075
10~14	4,931	4,691	6,054	5,029	3,167	3,079	3,102	2,991
15~19	4,964	4,712	4,328	3,620	3,036	2,957	3,109	2,998
20~24	4,268	4,110	3,358	3,202	2,754	2,709	2,657	2,598
25~29	3,949	3,864	2,970	2,635	2,396	2,368	2,222	2,166
30~34	4,154	4,085	2,449	2,282	1,927	1,942	1,903	1,860
35~39	5,478	5,423	2,173	2,128	1,370	1,401	1,603	1,555
40~44	4,524	4,525	1,986	1,972	1,181	1,210	1,190	1,179
45~49	4,285	4,335	1,650	1,496	925	948	898	945
50~54	4,029	4,115	1,674	1,354	736	776	787	854
55~59	3,594	3,740	879	762	598	634	645	705
60~64	2,792	3,245	1,327	929	459	490	501	566
65~	5,368	7,953	2,046	1,515	759	864	760	952

1) 常住人口。日本は総務庁統計局「人口推計月報1988年2月」による。

人口の山は 日本は35歳から39歳の層にある。

パキスタンは5歳から9歳の層にある。

フィリピンは5歳から9歳の層にある。

タイは5歳から9歳の層にある。

UN「人口統計年鑑1982~86年」

年齢別経済活動人口

(単位 1,000人)

年齢	日本 1987年		フィリピン 1985年		タイ 1984年		パキスタン 1984~5年	
	男	女	男	女	男	女	男	女
総数	36,550	24,290	13,402	8,241	14,186	12,556	26,149	2,723
15~19	860	780	1,736	1,061	2,130	2,088	3,320	387
20~24	3,010	2,990	1,841	1,086	2,308	2,016	3,344	326
25~29	3,780	2,190	3,236	2,009	2,096	1,758	3,060	312
30~39	9,450	5,440	2,748	1,756	3,287	2,821	4,877	583
40~49	8,480	6,000	2,018	1,301	1,926	1,770	4,173	444
50~54	3,840	2,540			1,323	1,163	1,726	133
55~59	3,250	1,890	1,220	703	642	380	1,071	61
60~64	1,980	1,240					1,177	58
65~	1,900	1,220	602	323			1,134	41
ILO「労働統計年鑑 1977,84~87年」							(次の所を除く) ジャム・カシミール, ギルギッ ト, バルチスタン, ジュナガ ド, マナバール	
就学率	1987		1985					
調査年	→		→				→	
初等教育			7~12				5~9 (1984年)	
	%	%	%	%	%	%	%	%
6~14	100	100	94	95	97	61	32	
中等教育			13~16		13~18		10~16 (1984年)	
15~17	91	94	48	51	30	24	9	
高等教育							(1985年)	
	39.5	24.9	35.5	40.3	19.6	7.	3.2	
文盲率	(1980年) %		(1985年) %		(1985年) %		(1985年) %	
	0.2	0.5	14.0	14.6	5.8	12.2	60.1	81.4
UNESCO「統計年鑑 1984,85,87年」								

開発途上国の経済協力受取額 / (純額ベース) (100万米ドル)

	フィリピン	タイ	パキスタン
受取額	1984年 906.2	1984年 1,444.4	1984年 647.4
ODA	355.4	375.0	248.3
(二国間 国際機関 への拠出	41.5	100.1	434.7
1人当り受取額	7.5	9.4	7.5

ODA—政府開発援助、贈与的性格をもった政府資金である。GNPの0.7%を国際目標としている。「二国間」は開発計画に対する無償資金協力や技術協力(政府貸付、食糧延払い援助、債務救済等)である。

「国際機関への拠出」とは、国際連合諸機関等への拠出及び世界銀行グループ、地域開発銀行等に対する出資である。

資料 OECD「開発協力1986~87年」、海外経済協力基金「海外経済協力便覧」  
1988年

経済活動別国内総生産／UN「国民経済計算統計」1985年

	フィリピン	タイ	パキスタン	日本(参考)
年次総額	1985 32,787	1985 38,343	1985 33,136	1986 1,976,005
100万米ドル				
産業別割合	%	%	%	%
農林漁業	26	17	23	3
鉱工業	28	25	20	34
建設業	4	5	4	8
卸売・小売業	21	22	16	13
運輸・通信業	6	9	7	6
その他	4	5	8	40

農業生産状況

	フィリピン	タイ	パキスタン
1986年FAO			
総面積	30,000 1,000ha	51,400 1,000ha	79,610 1,000ha
農業用地			
耕地	△4,500	△17,600	△20,100
樹園地	△3,400	△2,020	△400
牧場・草地	△1,160	△308	△5,000
森林	△11,350	△15,000	△3,060
その他	9,407	16,249	48,528
(△推計値)			
(FAOの統計 1986年)			
・農業生産指数食料	(1979~81年=100の1986年値)		
1人当り食料	110	118	124
食料供給	(1983~85年のもの)		
一人当り栄養量			(日本)
一人当り			cal
カリories	2,313cal	2,440cal	2,186cal (2804)
蛋白質	48.7g	47.8g	56.4g (85.6g)
脂肪	32.4g	29.3g	47.9g (81.3g)
(1986年FAOの統計)	(農畜水産物の一次産物及びその加工品 310種に関して、利用可能な食料供給量を消費人口で除いたものである。家畜、ペット用、貯ぞう、損失分も全部含まれている)		
農用機械			
FAO1985年	1,000台	1,000台	1,000台
農業用トラクター	19.5	125.0	156.6
刈取脱穀機	0.6	—	0.7
漁獲高1985年	1,000トンの	1,000トンの	1,000トンの(日本千トンの)
	1,867.7	2,123.6	408.4 (11,443.7)
	FAO「水産統計年鑑 1985年」		

都市における賃金労働者の1か月，1世帯当たり平均現金収入及び現物収入と支出状況

家計収支	日 本 都 市	フィリピン 農村を含む	タ イ バンコックが主	パキスタン 全世帯
調 査 年	1987年	1971年	1972年	1971~72年
通貨単位	円	ペソ	バーツ	パキスタンルピー
収入総額	468,031	483.3	2,792	361
支出 "	378,632	373	214	356
支出の割合				
消費支出	80.0	97.0	96.1	97.4
所得税など	12.1	0.2	0.4	0.9
社会保障費	7.9	1.4	—	—
その他	0.1	1.4	3.5	1.7
消費支出総額	302,740	362	2,476	347
消費支出の割合	%	%	%	%
飲食費	24.9	59.5	47.9	47.1
住居費	5.6	10.0	6.5	12.1
光熱費	5.3	3.3	4.1	5.0
設備維持費	4.1	5.1	4.3	5.0
被服費	7.0	6.4	7.6	8.9
雑費	53.1	15.7	29.6	21.9
ILO「家計収支統計」				

住 宅 状 況

	日 本	フィリピン	タ イ	パキスタン
世帯の住宅 保有状況	1983年	1975年	1976年	1980年
持 家	62.4%	87.7%	88.6%	78.4%
借 家	37.3%	8.5%	7.5%	7.7%
室当り人員	0.7人	—	—	3.6人
一室のみの 住宅の割合	4.5%	—	39.0%	51.5%
設備別割合	1983年	1970年	1976年	1980年
屋内水道	94.0%	61.1	11.7	12.6
便 所	99.7	63.3	50.3	—
水 洗	(58.2)	(22.6)	(0.5)	—
電 気	—	22.7	24.0	30.6

UN「統計年鑑 1974, 78~83, 84年」

- ・「住宅」とは世帯の居住のための建築又は改造された恒久的建物
- ・営業用のみの部屋は含まれていない。「水道」は住宅内及び住宅から 100m以内で圧力タンクやポンプのような個別の設備も含む。

	日 本	フィリピン	タ イ	パキスタン
病 院	9,699	1,168	714	—
1ベッド当り人口	79人	518人	658人	1,737人
医師1人当り人口	642人	6,713人	6,870人	2,911人
人口10万当り				
ジフテリア	0.0	2.5	2.1	0.7
破 傷 風	0.0	2.8	2.2	1.8
結 核	56.2	121.8	35.6	36.1

5. 当該国から受けた資料

1) フィリピン—THE FILIPINO WOMEN IN RICE FARMING

(全和訳)

RUFINA R. ANCHETA  
Chief, Home Economics Programs Divisi  
Bureau of Agricultural Extension  
Ministry of Agriculture

## THE FILIPINO WOMEN IN RICE FARMING \*

By: MS. RUFINA R. ANCHETA

### INTRODUCTION

#### 1 A Look at Rural Life

All over the Philippines, places have been linked through an intensive program for a nation wide construction and repair of air, water and road travel facilities. However, there are still barangays which are isolated during certain times of the year. Mobility of people and delivery of commodities are still hampered by poor roads and lack of public means of transportation.

Standards of living are generally low due to low income levels. Houses of light materials like bamboo are common in low production areas.

Major health problems are communicable diseases transmitted through air, water and food. Most common are the respiratory infections and gastro-intestinal ailments.

There is still much to be learned and adopted in the real concept of cleanliness in food handling, drinking water supply, environment, and health habits in general.

Kerosene lamps and native stoves using charcoal or wood for fuel are still very common. But one-third of the countryside is now with electricity since the operation of the rural electrification program started seven years ago. Aside from the lights in the homes and streets, night schools are now available to farm workers to complete their education. Safe and clean water systems have been installed for the use of whole communities. Ice and cold storage plants for fish are the benefits for fishermen. Other gains are more convenient facilities for housekeeping and income generating activities. For progressive families, the radio, stereo and TV have gained their place in the home as media of information and entertainment.

#### 2 The Farm Family

As one drives by the countryside, he can see the farmer, under the sun and rain, patiently tilling the soil, his legs soaked almost knee deep in mud. He is dependent on the land for his livelihood whether it is owned or leased by him. Land, water, and the carabao, plus a few farming tools are the source of the rural man's food, security, occupation and wealth. The land consumes all his energies. In it, he puts all his heart and soul. It is not strange, therefore, that farmers fight and stake their lives over a piece of land.

The Agrarian Reform program, has transferred ownership of land from the landlord to the land tiller. This is the promise for a better life for the man of the soil.

*\*Philippine Country Paper, Workshop on Women's Participation in Paddy Production and Processing, Malaysia, October 21 to November 5, 1981.*

OCCASIONAL PAPER NO. 4  
NFE/WID EXCHANGE—ASIA  
UNIVERSITY OF THE PHILIPPINES AT LOS BAÑOS  
MARCH, 1982

Contrary to the common impression that the rural family is an extended one, about 80 percent are of the nuclear type. The young rural couple usually establishes their own home with parents providing a great deal of assistance. The father is the head of the family and the principal breadwinner. The wife accepts her role as second in authority. To compensate for this, she is the treasurer of the family income. She participates in decision-making in affairs related to their occupations.

The Filipino rural family is characterized with stability and solidarity, which must have been a result of hundreds of years of interaction. It has developed, however, a feeling of insecurity which can be traced back to the country's history of many social and political unrests, starting from the warring barangays, the Spanish Occupation, Philippine Revolution, Philippine American War, the Japanese Occupation, the Huk Movement, and other peace and order problems. The family must unite to protect itself from external danger. This is also the reason why the Filipino has the attitude of individualism and small group-centeredness. This is early manifested in the "Kamag-anak" and "Kabayán" system where there is mutuality of assistance among family members and people coming from the town or region.

This attitude may be well utilized as a motivation to undertake family and community projects.

The average number of children in the rural family is five (5).

The value of children stems from the social orientation that children are blessings from God, economic assets, insurance in the future of parents and joy in the home. These are reasons why there are big families in rural areas. Another reason is that young boys and girls who are out-of-school, perhaps have no other options. To the teenage girl who is oldest in the family and working to support the younger brothers and sisters, marriage may open up new horizons for her. Rural people have a way to cope with exigencies. As the family increases, there is a corresponding increase in family earners. Children get odd jobs, like farming, selling puto, shining shoes, etc. In 1971, the per capita income of the rural household was P490, while that of the urban was P1,006.

Generally, rural parents have a limited formal schooling. The average is about 6 years. This is a barrier to acquiring knowledge on new farming and homemaking practices unless demonstrated with an explanation as simple as possible.

There is strong impression that the problems of rural families are those that confront people everywhere — sickness, poverty, schooling for children, faithfulness of one's spouse, unemployment and protection from fire and theft. Asked about their goals and aspirations, frequently mentioned by farmers are: to progress or get rich, to send children to school, to have enough to eat, to build or repair a house, to have a bigger area to till.

### 3 Education

In 1970, the literacy rate of rural women was 77.2 percent as compared to 97.1 percent of urban women. Seventy-five percent of rural women had attended school. The majority, 44 percent had completed primary grades. Only 17 percent graduated from elementary school, which indicated a considerable drop-out rate. Those with elementary schooling (61%) either started



or completed, and probably went through their life without access to continuing education or with very limited opportunity to practice the limited learning acquired in school.

Only 7 percent rural women went to or completed high school and 4 percent attended/completed college. Higher education in the rural areas is usually not available. Vocational training reached only 1.1 percent of the married rural women. The average length of training is 9.47 percent months.

Although the government provides educational opportunities for both sexes without discrimination under present circumstances, males more than females usually have more educational opportunities, particularly in poor families. Traditionally, parents send boys to school.

The low educational attainment of females may be due to a number of social and economic factors such as early marriage, pressures to get a job and the need to help in the home or on the farm. In addition, elementary or primary education is usually the only level of education which is free.

#### 4 Types of employment

One third of the rural women are in the labor force. Over half of rural women in the labor force are employed in the agricultural sector (54%) while 45 percent are in the non-agricultural sector. Among females who work in agriculture, 59.13 percent are farm workers, 18.44 percent act as farm managers, 8 percent work on coconut farms and 6.8 percent in other crops, poultry and livestock. Of the female agricultural labor force, about 70 percent are in rice and corn production. They perform most of the farm labor activities such as transplanting, weeding, fertilizing, harvesting, and threshing. It is for this reason that the issue of labor-intensive technology poses a dilemma since it is mostly the rural women who bear the physical burden which goes with this type of technology. ✓

The National Demographic Survey (1973) gives more detailed breakdown of the employment of rural women; farm workers – crop production (59.3%); (13.38%); maids, laundry women and nursemaids (13.26%); basket weavers (12.34%); market vendors (11.39%); dressmakers (10.23%); sewers and embroiderers (not in factory, 7.30%); and salesgirls in wholesale and retail stores (7.11%).

Compared with other industry groups, with the exception of domestic services, agriculture pays the lowest among the various industry groups. For full-time workers, the average weekly cash earnings of females in agriculture in 1975 was P27.00 against P40.00 for males. The highest weekly average was P95.00 for government female employees. Perhaps these data do not really mean much to a great majority of rural females since the bulk of rural females in the labor force are unpaid family workers (70%) while 15 percent are self-employed. Only 15 percent are wage and salary workers. Nationally, only 37 percent of females (53% of males) are wage and salary workers; 43 percent are unpaid family workers (57% of males) and 20 percent are self-employed (80% of males).

## 5 Family Size

The mean number of children among married Philippine women at the reproductive age was estimated to decline from 5.44 percent in 1975 to 5.0 percent in 1980.

### Income

In rural households, the wife is a contributing source of income for 43.8 percent of the households.

The NDS (1973) reports that 92 percent of the rural housewives earned less than P1,000.00 as cash income in 1972. Among those who received non-cash income in 1972, 51 percent received less than P500 and 12.4 percent received an equivalent of P500 – P3,999. The contribution of rural women to household income may, therefore, be considered significant (NDS, 1968).

## 6 Decision-making Participation at Work and Home

Chua (1973) conducted a survey on decision-making regarding the amount of money to be spent on the farm. In spite of the fact that almost half of the wives contributed to the family income (NDS, 1968), the husband was still the major decision-maker in the use of family finances. The husband was the principal source of decision in 55 percent of the cases; the wife alone in 18 percent of the cases; joint husband-wife decision was arrived at by 27 percent.

In the farm business decisions, the husband usually consulted the wife more than half the time on the following matters: buying fertilizers, where to sell agricultural products, engaging in a new enterprise, buying a carabao, buying farm tools and equipment, buying farm chemicals, where to borrow money, adopting new rice varieties, and changing rice cultivation practices (Hsueh-Yi Lu, 1968).

After analyzing the data on Filipino women, Castillo (1976) concludes that the decision-making pattern in the Filipino households is egalitarian. The wife participates in the management of the households and other family matters, this includes farming and other means of livelihood. Castillo points out, however, to the need to know the content and quality of the decisions made by women.

The above results appear to be very optimistic. However, the general picture still portrays the wives working very hard on the farms with very little say in work matters and with hardly any training in farming.

#### 7 Roles of Women in the Home

In a survey made in three farming barangays in Batangas, the activities of women in the home and on the farm were summarized as follows: (1) Home Production Activity — food preparation/cooking, marketing, laundry work, cleaning the house, child cares (feeding, cuddling, playing with child), fetching water, gathering firewood, renovating old clothes, other productive activities. (2) Market and Production Activity — wage earnings (cottage industries), farm activities, homeyard gardening, backyard livestock raising, selling produce in local market, other productive activities. (3) Personal Consumption Activity — personal care, sleeping/resting, recreation and socialization, other productive activities.

The following table shows a representative sample of the daily chores and time spent on these chores by farm women:

Time	Activities in the home
4:00 — 5:00 AM	Food preparation/cooking
5:00 — 6:00	Taking care of the school children needs/ husband
6:00 — 7:00	Cleaning the house and yard
7:00 — 8:00	Feeding the chicken/pigs, etc.
8:00 — 9:00	Washing the clothes and other laundry work
9:00 — 10:00	Marketing for food/marketing produce (done only twice or thrice a week)
10:00 — 11:00	Preparing/cooking meals
11:00 — 12:00	Attending to the food needs and other needs of school/pre-school children and husband
12:00 — 1:00 PM	Washing dishes, kitchen equipment
1:00 — 2:00	Continue washing clothes, rest a little
3:00 — 4:00	Home gardening, doing some cottage indus- try work
5:00 — 6:00	Feeding pigs and chickens, preparing/cook- ing foods
6:00 — 7:00 PM	Looking after the family's needs husband
7:00 — 8:00	Continuing some tasks left undone
8:00 — 9:00	Sleep

During the peak seasons of planting and harvesting the women spend all of their daylight hours on agricultural chores, arriving in the field as early as seven o'clock. During these periods, they leave some of their domestic tasks undone, e.g. washing clothes, cleaning the house or their cottage industry work. These are done later in the day or at night after arriving from the field. In the field, the women help the men in any field operation except plowing and preparing the field.

#### 8 Social and Political Participation

In terms of participation in community activities, the average rural woman, considering all aspects of community life, projects a high degree of participation in social activities, such as fiestas, wedding funerals, baptisms, etc.

Rural women also show increasing participation in civic activities, such as the "Green Revolution", nutrition programs, community beautification, cleanliness drives, puericulture center programs, and club membership. However, there were no data presented on the extent and quality of participation of women in these projects. Membership in Rural Improvement Clubs (RIC) for example, is mainly composed of rural women.

In the recently launched nation-wide cooperatives development program at the village level, which includes a compulsory savings program for capital formation, participation by women was only incidental. They were involved only in the absence of their husbands.

Another point to consider is that while agricultural programs are male-oriented, family planning activities focus primarily on females. Such a segregation in program targets immediately puts a constraint on the achievement of program objective and may work against total development efforts. After all, planning the number of offsprings involves and should therefore be decided upon, by the couple. Any enterprising woman who has tried to get some types of business licenses would know that a married woman has to get the husband's consent before the government gives its approval.

#### 9 Group/Cooperative Action and Leadership

For a village-based type of organization whose membership is mostly agricultural and rural, a representative example is the female participation in the Samahang Nasyon, a pre-cooperative association at the barrio level — which is a part of the nation-wide cooperatives development strategy. Of the total 10,690 Samahang Nasyon with 472,569 members, only 5.4 percent are women officers. However, the position held by the women can have wider implications because almost half of the female officers are Secretary-Treasurer and about 18 percent are auditors and 12 percent are managers.

As secondary workers, women consequently have little access to productivity, increase opportunities of family in new technologies, promotions and other work experiences which may lead to new marketable skills and better employment opportunities. Given a society's prejudice against leadership capabilities, women do not get top administrative positions even in areas of employment of relative equality with men.

## 1 WOMEN'S PARTICIPATION IN RICE FARMING

### 1-1 Female Labor Inputs in Rice Production

Of the total number of rural Filipino women in the labor force 54.5 percent are employed in the agricultural sector. Of the female agricultural labor force about 59.3 percent are in rice and corn production. In the 1975 agricultural statistics, 43.9 percent of the total number of female rural workers unpaid family workers, 89 percent of whom were in agriculture. Rural women have always had a dual contribution to economic production. First, in the crucial task of reproducing and caring after the members of the family, and second, in their personal achievement in economic production. Their contribution to agricultural production, in particular, is at least equal to, if not greater than that of men, since they share in the pre-and post-harvest operations. They perform most of the farm activities requiring intensive labor such as preparing the seedbeds and sowing seeds, transplanting, weeding, fertilizing, harvesting, threshing, drying and other post-harvest activities. As partners of husbands and men these unpaid female workers help till an average of 1.5 hectares of irrigated land and 1.5 hectares of unirrigated rice land although this farm size varies from region to region.

### 1-2 Wage Payment of Rice Farm Worker

Compared to other industry groups, with the exception of domestic services, agriculture pays the lowest among the various industry groups. For full-time workers, the average weekly cash earnings of females in agriculture in 1975, was P27.00 against P40.00 for males. The highest weekly average was P95.00 for government female employees. The national average for both sexes was P40.00. Perhaps these data do not really mean much to most of the rural women, since majority of them who are in the agricultural labor force are unpaid family workers.

Hired female workers participate also in almost all types of farm operation especially during the peak seasons. A comparison of wages of hired workers for rice production shows the difference in pay, with females getting slightly higher amounts for harvesting and threshing, Table 1.

TABLE 1. WAGE PAYMENT OF WORKERS FOR RICE PRODUCTION  
(P/per day/person)

Activity	Male	Female
Land Preparation	8.16	5.78
Transplanting and related tasks	9.43	8.72
Weeding	10.36	9.51
Other pre-harvest	—	—
Harvesting	12.86	14.32
Threshing	14.69	15.73
Post-harvest	9.78	9.45

At present, landless women, who work as farm laborers during the past seasons in such pre-harvest activities as preparing the seedbeds and sowing the seeds, transplanting the seedlings, weeding and fertilizing earn P20.00 a day with free lunch and snacks in the morning and afternoon. They work from 7:00 a.m. to 4:00 p.m. or 8:00 a.m. to 5:00 p.m. During harvest seasons, they usually want to be paid in grains. After harvesting and threshing, they receive 1/5 as their share; e.g. If they harvested and threshed (manually) five cans of palay, their share is one can.

## 2 FARMING OPERATIONS AND WOMEN'S PARTICIPATION

### 2-1 Preparing the Seedbeds and Sowing the Seeds

One method of preparing the seedbed is the "dapog" system.

The field, usually plowed by the husband, is finally prepared thus making the soil clean and fine and properly irrigated (in case of lowland).

The soil is then raised to about four inches, making a raised plot of about one meter in width and 5 meters in length. The plot is lined with vinyl or plastic material or banana leaves and fenced around with peeled banana trunks and bamboo sticks. Beforehand, the palay seeds are placed in a vinyl sack and soaked in water for two days. On the night of the second day, the sack is wrapped in rice straw and kept overnight to be heated. The heat hastens the germination of seeds. On the 3rd day the seeds are scattered evenly in the plots. After twelve days, the seedlings are ready for transplanting. (This method varies from region to region).

### 2-2 Transplanting

Women group themselves in transplanting the seedlings. A schedule among them is arranged. With the use of simple tools such as strings, planting board for making lines in the field, the women transplant the seedlings to the prepared rice fields in properly spaced distance.

### 2-3 Weeding

Women use three types of weeding, either manually (by pulling with the hand) and by the use of mechanical tool as weeder, and chemically by the application of weedicides. The first method is done in a squat position and pulling the weeds with one or both hands. This is very tedious work as the legs and other parts of the body become stiff and sore afterwards. The use of a steel weeder lightens the women's work. The weeder is easy to manipulate since it is only pushed in between the rows of the plants.

Weedicides are recommended by agricultural extension workers and are sprayed as soon as weeds infest the rice fields. This effectively controls most of the weeds although stubborn ones are pulled by hand. The men mostly do this job but women also help.

### 2-4 Fertilizing

This technology is part and parcel of the Philippine rice farming. As recommended by the agricultural extension workers, the kind, amount, time of application and proper method of application of fertilizer are taught by the husband to other members of the family. Women at times do this chore.

#### 2-5 Harvesting

Majority of those who harvest the palay are women. With "salakot", a kind of head gear, or a hat, long sleeve blouses, pants and "takuyan" (grain basket) slung on the shoulder, a simple instrument called "yatab" (for upland rice) or "lilik, karet" (scythe, for lowland) the grains are harvested. The panicles of palay are transferred from the "takuyan" to the vinyl packs and are either transported by women who carry these on their heads or in a carabao cart from the field to the house or shed where they are to be threshed.

#### 2-6 Threshing

Threshing differs from region to region. The grains are finally separated from the rice straws or panicles by means of hand; or by holding the stalks of palay and threshing or striking them on an object (hampasan) until the grains are separated and fall on a mat or canvass or cemented floors.

Women also thresh the panicles of palay with their two feet. The panicles of palay are placed on a mat, vinyl or cemented floor and brought between the two feet and crushed until the grains are separated from the panicles and fall on the mat. These are heaped in one place ready to be dried. When a small threshing machine is used, women help in pushing the palay stalks into the machine. They also help in removing the hay after threshing.

#### 2-7 Winnowing

With the aid of a circular flat basket made of bamboo, women scoop the grains from the mat or cemented floor and with their two hands bring the basket a little bit above their head and positioning themselves from where the breeze blows, let the grains cascade down to the mat. The breeze separates the light unnecessary materials and chaffs from the heavy grain, rendering the grains clean from foreign materials.

#### 2-8 Drying

Women do most of the drying of the palay. First, they spread a mat or any large material in front of their houses or in the sidewalks where sunlight is available and unhampered all throughout the day. They place and spread the palay thinly and evenly on the mat with their hands, or feet or with the use of simple hand tools made of wood, bamboo or steel. They care for the palay throughout the day, turning it over and over again or driving chickens and other animals which may peck or eat the grains.

Sometimes, cement flooring is available and drying is done on this, Village roads, town plaza, basketball courts are utilized.

#### 2-9 Storing

This is also a task of the rural women. Storage containers such as vinyl sacks, "balaong" — big bamboo baskets, and others are used to store the grains. A small hut built separately from the house, a small room in the house, or a corner of the house serves as storage facility for the harvested grains.

#### 2-10 Milling

Since small millers are available in the barangays, the wooden mortar and pestle are seldom used these days. These tools are only used in processing green palay for a native delicacy called "pinipig".

All throughout these paddy production and post-harvest activities, women also do their roles in preparing the food of the labor force and taking care of the home management of the family.

## 2-11 Other Activities

### 1. *Paddy Field Utilization After Rice Harvest*

Many farmers plant new crops after harvest not only for additional income but for soil enrichment. Most common crops planted are pulses, such as mungo, red and black beans, peanuts and other vegetables. Women assist their husbands in the planting and harvesting of the crops.

### 2. *Marketing*

Women in consultation with their husbands, are responsible for marketing the crops. However, the wife is mainly responsible for marketing the vegetables raised in the paddy.

### 3. *Food Processing and Utilization*

Processing and utilization of farm produce is the main responsibility of the women who process these home use and for market.

### Amount of Time Used by Women in Rice Farming

A survey in three barangays in Batangas shows the amount of time used by women in the different farming operations. Harvesting ranked highest, followed by weeding, threshing activities.

TABLE 2. AMOUNT OF TIME USED BY WOMEN IN RICE FARMING

Field Operations	Number of Hours	Work days per Cropping Season
1. Preparing the seedbeds and sowing the seeds	2	—
2. Transplanting	5	—
3. Weeding	80	10
4. Fertilizing	—	depends upon the task given by the man
5. Harvesting	240	30
6. Threshing	80	10
7. Winnowing	80	10
8. Drying	80	10
9. Storing	16	10
10. Milling	—	depends upon the volume

### FACTORS RESPONSIBLE FOR THE SLOW GROWTH OR PARTICIPATION OF WOMEN IN PADDY PRODUCTION AND (POST HARVEST) PROCESSING

Women spend at least eight hours a day fulfilling housekeeping and child rearing activities. Additional farm work increase their working hours from 14 to 17 hours. Often the needed assistance is provided by girls who drop-



out of school even before completing their elementary education in order to devote fulltime to household chores and help on the farm, thus, easing a little the burden of women in the performance of their traditional role as housekeepers.

Limited/lack of appropriate home technology hinders to some extent their active participation in paddy production and processing.

The very limited education usually confined to elementary education, attained by most rural women is a contributory factor for the slow growth of participation of women in paddy production and processing.

In the rural areas, the majority of women also have to work on the farm as unpaid family members. Thus marriage and family life necessarily have to be combined with daily farm work routine. Moreover, the teaching of modern agricultural methods, provision of facilities and the like have so far been directed to men only or geared towards the men, thus, creating a big drawback to the development of rural women's economic participation. Through training in appropriate modern scientific agri-skills and home-management, women will improve their productivity.

### PROBLEMS AND NEEDS OF RURAL WOMEN

#### As Perceived by Rural Women Themselves

Gonzales' study (1976) investigated the women's perception of the causes of their problems, and their suggestions: The majority (85% of the mothers and 69% of the daughters) felt that the problems were due to the external conditions and circumstances over which they had no control. Very few considered the problems as being due to their personal inadequacy or the inadequacy of others. Sixty-six percent of the mothers and 76 percent of the daughters felt that poverty presented social immobility, but this could be alleviated by education. The majority, (63% of the mothers and 78% of the daughters) felt that they had to personally strive to overcome the problems. Few of the women (38% of mothers and 2.8% of the daughters) felt completely helpless or gave in to fatalistic solutions. It is interesting to note that hardly anyone suggested enlisting the aid of the government or some external agency in order to solve their problems. This was mentioned by only 2.9% of the mothers and 2.8% of the daughters. The findings are encouraging in spite of the fact that the problems themselves were attributed by the respondents to external conditions. This means that given the proper motivation these women will learn how to mobilize themselves for reforms and there is a need for external structuring to help rural women solve their own problems.

#### As Perceived by External Agencies

The following were the problems of rural women as perceived by external agencies: (1) Traditional attitude of male dominance, lack of recognition of women's potential, and unequal opportunities for men and women. (2) Seemingly, traditional attitudes of rural women: that they are just destined to be with their husbands and/or live in the barangay. They seem to be generally resigned to their present roles. (3) Low education and background. (4) Lack of training opportunities: farm modernization programs are usually directed to men. (5) Poor economic conditions. (6) Lack of social services. (7) Lack of comparative rural planning.

## SUGGESTIONS/RECOMMENDATIONS FOR IMPROVING WOMEN'S PARTICIPATION

Development assistance to projects which apply work simplification methods and activities of rural women at home, in the homeyard and on the farm including the appropriate technology to lessen their domestic burdens, improve and lighten their household and farming activities. This would also entail a survey of existing appropriate technology for the various tasks performed by rural women, to determine how they can be adopted locally and shared with the target population. Subsequently, training schemes should be developed and tested to transfer these skills to women and to determine how these improve the fulfillment of their roles as farm workers.

Provision for technical and financial assistance for the implementation of functional education and training programs. The content of these should relate to the motivation activities to raise the level of consciousness regarding their rights and responsibilities to the various tasks women have to perform in the home, on the farm and in the community.

Educational and skills training for effective community participation such as interpersonal relations, problem solving, leadership and organizational development and management.

Home management — work simplification, budgeting; use of time and labor — saving devices at home.

Farming — scientific soil and fertility conservation, improvement and recycling of resources, use of appropriate modernized tools.

Provision of technical and financial assistance to implement and document projects/trainings of rural women in modern scientific farming, on management, cooperative formation and home management to enable them to combine efficiently work in the household and in farming. Training programs should be provided to develop their skills in their various roles and functions both in agricultural programs and in home management.

Provisions for day care centers for children during the farming season.

### Proposals for Action on Collaborative Effort

Joint training for women in the Asia and Pacific Region on Management and entrepreneurial skills in cooperative and credit schemes for farming and income generating projects.

Strengthening rural women leadership in support to farming operations through women leader exchange and study tour programs among groups in the regions.

Cooperative efforts in a study of small tools and practical technology used by farm women in the home and on the farm.

Exchange and sharing of extension information and materials used by agencies among farming women groups.

Promote international and regional cooperation through the sharing of technical experience and expertise, thru international/regional meetings and conferences and such other means to achieve objectives.

#### 本資料について

この資料は1988年11月8日帰国研修生の BUREAU OF AGRICULTURAL EXTENSION MINISTRYの職員である MS, BENILDAより戴いた。MS, RUFINA R. ANCHETAは当時、CHIEF, HOME ECONOMICS PROGRAMS DIVISION BUREAU OF AGRICULTURAL EXTENSION MINISTRY OF AGRICULTUREであり、1982年に行われた NFE/WID EXCHANGE-ASIA UNIVERSITY OF THE PHILIPPINES AT LOS BANOSで報告した資料である。

#### 本文

##### はじめに

##### 1 農村の概観

フィリピン全土にわたって、農村地域を対象とする空気・水・道路交通の便のための建設と改修のための全国的な規模による集中強化プログラムが行われている。

しかし、まだ、1年のある時期には孤立する barangaysがある。人々の可動性と商品（日用品）の配達はまだ輸送の公共手段の欠除と、未整備な道路により妨げられている。

生活水準は低収入のため一般的に低い。竹のように軽量の材料でできた家が、低生産地域に共通している。

主な健康問題は空気、水、植物によって感染する伝染病である。呼吸器伝染病と胃腸の慢性病が最も普通である。植物の取扱と飲料水の供給、一般の健康習慣および、環境問題の中にある清潔の現実の概念について採用し学ぶべき事がまだ多くある。

明かりは石油ランプ、ストーブは燃料として木炭と木を使い、ストーブは土着の形の物で、それが普通である。農村の電化プログラムが7年前から始まって以来、地方の半は電化されている。家と通りの明かりは別として、夜の学校の明かりは農業者にとって教育を受けるために今、大切である。安全できれいな給水システムが全村の使用のために敷設されている。魚のための氷と冷凍貯蔵倉庫は、漁業者にとって利益である。その他、家族と収入作り活動のためにより便利な設備が獲得されている。例えば、ラジオ・ステレオ・テレビは進んだ家族にとって情報と娯楽として家の中に自分の場所を得た。

##### 2 農家

田舎に行く時、太陽と雨の下で農夫が我慢強く土を耕している。彼の足は殆どひざまで泥にもぐっている。彼はその土地が自分の物であっても、借りているものであっても、その生計のため

に土地なしには生きていけない。土地、水、そして水牛、2～3の農具が、農村の男の食料と安全と仕事・居住と富の源泉である。土地は彼の全エネルギーを費している。その中に彼は全精神と魂をおいている。農夫が命をひとかけらの土地にかけ奮闘しているのはそれ故、不思議ではない。農地改革プログラムは土地の所有権を地主から小作農（耕作者）に移転した。これは土地に生きる者にとってよりよき生活のための保証である。

（フィリピン農村紙，米生産と製造への婦人の参加に関する研究会 マレーシア，10月21日から11月5日，1981年）

農村は大家族（大家族）であるという共通の印象に反して，約80％は核家族タイプである。若い農村のカップルは普通，自身の家庭に多くの支援を与えてくれる両親と共に創始する。父親は家族の長であり，主な一家の稼ぎ手である。妻は自分の役割をNo.2として甘受する。この償いとして彼女は家族の収入の金庫番である（会計係）。彼女は家族の職業に関する些事における決定に参加する。フィリピンの農家は安定した結束によって特徴づけられる。それは何百年に渡る相互作用の結果であったにちがいない。

しかし，多くの社会・政治的不穏の国の歴史に起因する不安感が拡大している。それらの社会不安は，戦うbarangays（スペインの占領，フィリピン革命，アメリカとの戦争，日本の占領，ハック運動と，そして他の平和と治安の問題）から始まっている。

家族は外の危険から自身を守るため結束しなければならない。これはフィリピン人が個人主義と小グループ主義の態度を持つ理由でもある。これはその町，土地の出身の人々と家族の成員の間の助け合いのつきあい（相互関係）がある“KAMAG-ANAK”と“KABABAYAN”システムの場合に顕著である。この態度は，家族と共同体の事業を企てる動機としてうまく利用される。

農村の子供の兄弟の平均数は5人である。子供の価値は，子供は神からの賜物（祝物）であり，経済的な資産であり，親達の未来の保険であり，家の喜びであるという社会の通念に由来する。これが農村地域に大家族のある理由である。もうひとつの理由は若い少女（学校にいかない）が他の選択技をもたないことである。家族の中で年長になり，弟妹の世話をしている10代の少女にとって結婚は新しい展望を開いているかもしれない。農村の人々は危急に対処する方法を持っている。家族が増えるにつれて，家族の稼ぎ手も対応してふえる。子供達は臨時の仕事をもろう，農家仕事や，プートー売りや，靴磨きのような仕事を。1971年には農家世帯のCAPITA収入は490ペソ（1ペソは¥6～7）だった。一方都市部のそれは，1006ペソだった。

一般的に田舎の親達は限られた公式の学校教育しかうけていない。平均は約6年である。これは可能な限り簡単な説明で示さないと，新しい農業経営と家政についての知識を習得することにとって障壁である。どこでも人々にとってたちはだかっている農家家族の問題は病気，貧困，子供達の教育，配偶者の貞節，失業，火事と泥棒の防御であるという強い印象がある。農夫達がゴールと目標（念願）についてたずねられ，しばしば答える事は次のことである。すなわち，進歩するか，金持になること，子供を学校へやること，食べ物に不自由しないこと，家を建てるか

修繕すること、耕作地をもっと広く持つことである。

### 3 教 育

1970年には、農村婦人の読み書きのできる率は77.2%であり、都市部の97.1%に対比された。農村婦人の75%は学校に通ったことがあった。44%は初級階段を終わっていた。しかし、小学校の卒業までできたのは17%しかいない。これはかなりのドロップアウトの脱落者率を示していた。小学校教育を始めたが、終わらなかった61%の人々は、たぶん続く教育に触れる事はないか、学校で学んだ限られた学問を実践する極めて限られた機会の人生を過ごしていったことだろう。

農村の婦人で高等学校へいったのはたった7%だけで、4%が単科大学にいつている。農村でのより高い教育はいつも役に立たない。職業訓練は既婚婦人の1.1%にしか及ばない。訓練の平均期間は3日である。

政府は現環境下で、男女の差別なく教育機会を与えるけれども、女性より男性の方がいつもより多くの教育機会をもつ。特に貧しい家族においては、伝統的に親は男の子を学校に送る。女性の低い就学率は沢山の社会経済的因子によるかもしれない。すなわち、早婚、仕事をうるときの圧力、そして家を助け農作業を手伝う必要性のためである。加えて初期の小学校教育は、普通、無料である唯一の教育レベルである。(高いレベルは金がいるということ)

### 4 雇用形態

農村婦人の1/3は就労している。半分以上の就労婦人は農業部門で働いている。(54%)、一方45%は非農業部門である。農業従事の婦人の59.13%が農家の下働きである。18.44%が農業経営者として働き、8%がココナツ農場で働き、6.8%が他の穀物農家や養鶏と牧畜業に働く。婦人農業労働力のうち約70%は米ととうもろこし生産のものである。彼等は農作業全般に従事する。すなわち苗の植えかえ、雑草取り、施肥、収穫、脱穀である。この種の技術に伴う肉体的苦勞に耐えるのは多く農家婦人であることのため、労働集約技術があるジレンマを提起するのはこの理由による。(立場の弱い婦人)

国の人口統計学調査(1973)は、もっと詳細の農村婦人の雇用分類を与える

農家下働き—穀物生産(59.3%)—13.38%

女中(メイド)・洗濯屋・看護婦助手—13.26%

籠あみ職人—12.34%

市場の行商人—11.39%

洋裁屋—10.23%

針子と刺繍屋(非工場労働)—7.30%

卸・小売り併せての売り子—7.11%

他の産業グループに比べると一家事手伝いを除いて農業はいろいろな産業の中で、最も低賃金である。フルタイム労働者にとって平均の女子の農業での週間当たり現金収入は1975年で男子の40ペソに比べて27ペソであった。最も高い週当たり平均は政府の女子職員の95ペソであった。多

分これらのデータは本当には農家婦人の大多数にとってあまり意味がない。なぜなら就労している大半の農家婦人は、無収入の家内労働（70%）だからで、一方15%は自家営業であるからだ。残りの15%のみが賃金または月給労働者である。全国的に婦人の37%だけが賃金又は月給労働者であり、（男は53%）43%は無賃労働者（男は57%）そして20%が自営である。（男は80%）

## 5 家族規模

既婚で成年に達した婦人達の子供の平均数は1975年の5.44人から1980年の5人に減少すると見積もられていた。農家では43.8%の家庭で主婦は収入獲得に貢献している。NDS（1973年）は次のことを報告している。「92%の農村の主婦が1972年の現金収入として1000ペソ未満を稼いだ。」1972年に非現金収入を受け取った婦人達の中で、51%は500ペソ未満を受取り、12.4%は500ペソ—3,999ペソの額を受け取った。家庭収入の農村婦人の寄与はそれ故、重要と考えられるかもしれない。

## 6 仕事と家の決定権への参加度合

1973年にCHUAは農家で費された金の総額に関して裁量権について調査を実施した。主婦の半分に及ぶ人達が家族収入に貢献したという事実にもかかわらず、夫はまだ家族資産の用途における中心的決定者であった。夫は55%のケースにおいて主要な決定者であった。18%のケースに於いてのみ婦人が主役だった。夫婦共同（相談）決定は27%だった。

農業経営決定で夫は普通次のことについて半分以上の場合妻に相談した。肥料を買うこと、農産物を売るべき場所、新事業への従事、CARABAOを買うこと、農機具、設備等を買うこと、農薬を買う事、金をかりる所、稲の新品種の採用、そして稲の耕作方法を変えること。

フィリピン婦人に関するデータを分析したあとCASTI LLO（1976年）は次のことを結論づけた。—フィリピン家庭の決定権特性は平等主義であると。主婦は家庭経営と他の家族の問題に参加する。これは、農業と他の生計手段を含んでいる。（CASTI LLOは指摘する）にもかかわらず婦人によってなされた決定の内容と質について知ることが必要である。

上記の結論は楽観的すぎるようである。しかし、一般の主婦は仕事のごたごたについてはほとんど無言で、農作業のきびしさにも応じてもくもくと働いている。

## 7 家庭の中での婦人の役割

BARANGAYSの農業のBARANGAYSでなされた調査によると、家と農地での婦人の活動は以下のように要約される。

- (1) 家庭生産活動——食物準備／料理、買物、洗濯、掃除、子供の世話（食事・添い寝・子供と遊んでやること）、水汲み、たきぎ集め、古着の補修や他の生産活動
- (2) 販売と生産活動——内職稼ぎ、農作業、家の庭作り、裏庭の家畜飼育、近くの市場で産物を売ること、その他の生産活動
- (3) 個人消費活動——私事、睡眠／休息、レクリエーションと社交、他の生産活動

以下の表は、日常の家事の代表例と農家婦人によってその家事に費された時間配分を示す。

4.00 ~ 5.00 AM.	食事前用意／調理
5.00 ~ 6.00	学童と夫の世話
6.00 ~ 7.00	家と庭の掃除
7.00 ~ 8.00	鶏や豚に餌をやる
8.00 ~ 9.00	衣類の洗濯／洗濯全般
9.00 ~ 10.00	食品の買い出し／産物売り（週に2～3度ぐらい）
10.00 ~ 11.00	食事の用意と料理
11.00 ~ 12.00	学童／幼児と夫の食事他の諸家事
12.00 ~ 1.00	皿洗い（あとかたづけ）、台所の整理
1.00 ~ 2.00 PM.	衣類の洗濯の続き、休憩
3.00 ~ 4.00	庭の手入れ、内職作業
5.00 ~ 6.00	豚と鶏に餌をやる、食事の用意／料理
6.00 ~ 7.00	家族と夫の世話
7.00 ~ 8.00	残りの仕事をつづける
8.00 ~ 9.00	就寝

婦人達は種まき（植えつけ）と収穫の繁忙期には、農作業に昼の時間のすべてを使う。朝7時には畑に到着する。これらの期間には、家事の幾つかは放置する。例えば、洗濯や掃除、内職仕事、これらは畑から帰った後で夜遅くなされる。畑では婦人達は畑を鋤き用意することを除く、どんな畑仕事においても男達を助ける。

## 8 社会と政治への参加

共同体（むら）の活動への参加という観点からすると、村の生活の全ての面を考えてみて、平均的な農村婦人は社交活動に高い度合で参加している。これらは祝祭、結婚式、葬式、洗礼等のような類のものである。

農村婦人は又、次のような市民活動にもだんだん参加するようになってきている。すなわち、緑化改革、栄養プログラム、村の美化運動、清潔運動、PUERICULTUREセンタープログラム、そしてクラブ会員活動である。しかし、これらの事業への婦人の参加の広がりや質について提供されたデータはない。農村改善クラブ（RIC）は、例えば主に農村婦人で構成される。

最近始められた全国的な村のレベルでの協力開発プログラムに於いて、それは財産形成のための強制的貯蓄プログラムを含んでいるので婦人の参加は付随的なものでしかなかった。彼女達は自分達の夫の欠席のためしかたなく参加させられただけであった。

分析的に考えねばならないもうひとつの点は、農業プログラムは男性本位のものであるが、家族計画活動は主に女性に焦点を合わせるという点である。そのようなプログラム目標の性差別は、すぐに目標の達成に無理を生じ、全体としての開発努力に反対作用となる。

結局、子孫の数を計画することはカップルによって定められるべきことである。ある種の事業

の資格を得ようとした、どんなに積極的な婦人も政府がその許可を与える前に夫の同意を既婚婦人は得なければならないことを知る。

#### 9 グループ／協力活動とリーダシップ

その会員は大部分農業者で村人である。村を基盤とした種類の組織として、代表的な例は、SAMAHANG NAYONの婦人参加である。それはBARRIOレベルでの前段階協力の会である。それは全国的な協力活動発展計画の政策の一部である。全体に472,569会員をもつ中で、SAMAHANG NAYONだけで10,690人そのうち5.4%だけが女の幹部である。しかし、婦人によってにぎられた、それらの地位は次の理由からより広い裏の意味を持ちうるのである。それは女性幹部の半分にも及ぶ人達が、財務幹事であり、約18%が監査役であり、約12%が局長クラスであるというためである。補助労働者（縁の下の方持ちとして）婦人は結果として生産にはほとんど触れないが、新しい市場向きの（売れる）技術とよりよき雇用機会に家族を導くかもしれない、他の仕事の経験や技術や昇進における家族のチャンスをつやしている。リーダシップ能力に対する社会の偏見があるので婦人は男と同等の雇用機会の地域でさえ管理職の長の地位に就くことはない。



## 1 稲作農業に於ける婦人の参加

### 1-1 米生産への女子労働力の投入

労働力のフィリッピン農村婦人の全数の中で54.5%が農業部門に雇用されている。女子の就農者の中で約59.3%が米ととうもろこし生産にかかわる。1975年の農業統計では全女子農村労働者の43.9%は、無給の家内労働者である。その中で89%は農業についている。農村婦人はいつも経済生産に二重の貢献をしてきている。一つは子供を生み、家族全員の世話をするという重要な仕事においてであり、もう一つは、彼女達の経済生産における私的な業績においてである。彼女達の農業生産への寄与は特に収穫前後の作業を分担して行うので、男の寄与よりは大きくないとしても、少なくとも同等である。彼女達は次のようなきつい集中労働を大部分において必要とする農作業を実行する。一すなわち、苗床準備、種蒔き、植えかえ、除草、施肥、収穫、脱穀、乾燥と他の収穫後の作業である。夫や男達の協力者として、これら無給の女子労働者は、農地規模は地域によって異なりいちはいには言えないが、平均1.5haの灌がいされている土地と、1.5haの灌がいされていない稲作地までを手伝う。

### 1-2 稲作農家労働者の賃金払い

他の産業グループに比べて、家内サービスの例外はあるが農業は色々な産業グループの中でも最も賃金が低い。フルタイム労働者として、1975年の農業の女子の平均現金週間収入は、27.00ペソであり、これに対し男は40.00ペソだった週平均の最高は95.00ペソであり、政府の女子職員であった。両性の国家平均は40.00ペソだった。多分農村婦人の大部分にとって、これらのデータは実の所あまり意味がない。なぜなら農業労働に従事している彼女達の大多数は収入のない家族労働者であるからである。

雇われている女子労働者もまた農繁期には特にすべての種類の農作業に参加する。米作りにとっての雇用労働者の賃金の比較は、その額に違いがあることを示す。それは収穫と脱穀のためには、わずかばかり、より高い額を女子がもらえるということを示している。

表1 米作りのための労働者の賃払い

作 業	(1日1人当たりのペソ)	
	男	女
土地準備	8.16	5.78
植えかえと関連仕事	9.43	8.72
除 草	10.36	9.51
他の収穫前作業	—	—
収 穫	12.86	14.32
脱 穀	14.69	15.73
収穫後作業	9.78	9.45

現在では土地を持たない婦人達は、過ぎ去った季節の間、農場労働者として次の分野で働く

一すなわち苗床準備や種蒔きや苗の植えかえや除草や施肥のような収穫前作業の分野である—  
のだが、朝と午後になだの昼食と軽食付きで、1日当たり20.00ペソ稼ぐ。彼女達は午前7時から午後4時までもしくは午前8時から午後5時まで働く。収穫期の間、彼女達はいつも穀物で支払われることを望む。収穫と脱穀の後、彼女達は分け前として1/5をうける。例えば彼女らが5かんのpalayを手で収穫し、脱穀したならば彼女らの分け前は1かんである。

## 2 農作業と婦人参加

### 2-1 苗床準備と種蒔き

苗床準備の一つの手段は“dapog”システムである。農地は、普通夫によって鋤かれるのだが、結局土をきれいにし、細かくし、適当に灌がいされるようにする。(低地の場合)土はそれから約10cm盛土される。それから幅約1m長さ5mの盛土区画を作る。区画はビニール、プラスチック又はバナナの皮で線を引かれ、皮をむかれたバナナの幹と竹のさおを並べて塀にして回りを囲われる。これより前に、palayの種はビニール袋と中におかれ二日間水の中にひたされる。二日目の夜に袋は稲藁で包まれ、一晚温める。熱は種の発芽を早める。三日目に盛土区画に等間隔にばらまかれる。12日後、苗は植えかえに丁度よく育つ(この方法は地域によって変わる)

### 2-2 植えかえ

婦人達は苗の植えかえの時集まる。彼女達の間で計画がたてられる。畑に線を引くための植え板や、糸のような単純な道具を使用して、婦人達は適当に間のあいた距離に用意の整った稲田に苗を植えかえる。

### 2-3 除 草

婦人達は3種類の除草方式を採用する。一つは手で引き抜くことによる方法、もう一つは除草器のような機械の使用による方法である。残りの一つは化学的に除草剤の適用によってである。第一の方法はしゃがんだ位置で片手又は両手で雑草を引き抜く。この仕事は足と体全体がこって痛くなる仕事である。鋼鉄製の除草器の使用は婦人達の仕事を楽にする。除草器は栽培植物の列と列の間を押し進めるだけでよいので取扱が簡単である。

除草剤は農業改良普及員によって推薦されており、雑草が稲田にはびこりはじめると散布される。これは強い草は手で引き抜かれねばならないけれども大部分の雑草に対し効果的にその繁殖を抑制する。タイでは男達がこの仕事をするが彼女達も手伝う。

### 2-4 施 肥

この技術は、フィリピン米作農業では付け足しの部分である。農業改良普及員によって推薦される肥料の種類、量、使用の時期、正しい施肥方法が、夫によって家族全員に教えられる。婦人はたまにこの作業をする。

### 2-5 収 穫

palayの収穫は大多数女達である。次のような服装で行う、“salakot”という帽子をつけ、長袖のブラウスとパンツで肩には“takuyan”という穀物かごを掛けてつるし、高台では“yatab”

という簡単な道具で、低地では大鎌 "llik, karet" をつかって収穫される palay の円錐花は "takuyan" からビニールバックへ移される。女達が頭にのせて運ぶか、畑から家又は脱穀場の貯蔵場所へ水牛車で運ばれる。

## 2-6 脱 穀

脱穀は地域によって異なっている。穀物は最終的には手によって稲藁や円錐花序から離される。すなわち、穀物がはなれて敷物やセメントの床に落ちるまで bampasan という物に palay をたたきつけるか、palay の茎をつかんで脱穀することによってである。

女達も又、両足で踏んで palay の円錐花序を脱穀する。palay の円錐花序は、マット、ビニール又は、セメント床の上におかれ、穀物がはなれるまで踏みつけられる。その後、穀物は乾燥されて準備のできた一つの場所に積んで貯蔵される。小規模の脱穀機が使われる時、palay の茎を機械に送り込んで手伝うのが婦人達の仕事である。彼女達は脱穀の後干し草を除くのも手伝う。

## 2-7 籾がらの吹き分け

竹でできた円形の平たいかごを使って、女達は穀物をマット又はセメント床からすくって、頭の上のかごにいれる。そして、それらを風上にもって行き穀物を滝のようにマットの上に落とす。微風は軽い不要物と籾がらを重い穀物から選り分け、不純物から穀物を精製する。

## 2-8 乾 燥

女達は palay の乾燥の大部分を担当する。最初、彼女達は家の前か歩道にマットを広げて敷く。その場所は日当たりがよく、一日じゅう邪魔にならない所でなければいけない。彼女達は palay をマットの上に薄く均等に広げる。それは手か足か木や竹や鋼鉄でできた手で持つ単純な道具を使ってなされる。彼女達は一日中 palay を見ている。それは、何度もひっくり返したり鶏や他の穀物を食べにくる動物を追い払うためである。乾燥はセメントの床、村の道、町の広場、バスケットボールコートが利用される。

## 2-9 貯 蔵

これも女達の仕事である。ビニール製のような貯蔵器や "balaong" という大きな竹の籠等が穀物貯蔵に使われる。家から離れて建てられた小屋や家の小部屋か、家の片隅が、収穫された穀物の貯蔵所となる。

## 2-10 製 粉

banagays では小さな粉屋が重宝しており、木のすり鉢と摺りこ木は今ではめったに使われていない。これらの道具は "pinipig" と呼ばれる土着の珍味のため、新鮮な palay を処理するときのみつかわれる。

この米作りと収穫後作業の全般に渡り、女性も又働き手の食事を用意したり、家族の家庭きりもりの世話をするという役を担っている。

## 2-11 その他の作業

### 1 米収穫後の稲田の使用

農家の大部分は収穫後、新しい作物を植える。これは追加収入のためだけでなく、土地の地味を肥やすためでもある。植えられる最も普通なのは豆類、マンゴーのようなもの、赤や黒い豆、ピーナッツと他の野菜等である。女達は夫を助けて作物を植えつけ収穫する。

## 2 売 る

夫と相談する女達は、作物の販売に責任をもっている。しかし、妻は主に田でできた野菜の販売について責任がある。(野菜のみ主婦まかせ)

## 3 食物加工と使用

農産物の加工と使用は家内使用と売りに出す両方のものを加工する女達に主な責任がある。

米作り農業の中で婦人によって使われる時間の総計、*batangas*の三つの *barangays* でのある調査は異なる農作業に婦人達が使った時間の総量を示している。収穫が最高で以下除草、脱穀作業が続く。

表2 米作り農業の婦人による使用時間総量

畑仕事	時 間	作付収穫期の実働日数
1 苗床準備と種蒔き	2.2	—
2 植えかえ	5	—
3 除 草	80	10
4 施 肥	—	男からまわされる仕事による
5 収 穫	240	30
6 脱 穀	80	10
7 籾がらふきわけ	80	10
8 乾 燥	80	10
9 貯 蔵	16	10
10 製 粉	—	量による

## 3 稲作と収穫後作業において婦人の参加の伸びの遅い原因

女達は家事と子育てに1日の少なくとも8時間を費す。追加の農作業が彼女達の就労時間を14時間から17時間に増やす。しばしば必要な援助は小学校教育も終えていない学校に出来ない少女達に与えられる。これは家庭の雑用に全時間をささげ、農家で手伝うためである。だが、これが主婦としての伝統的役割の実行において女達の重荷を少し楽にしている。習慣的に適当とされる家事は女達の米作りと加工への活発な参加をある程度妨げている。通常の小学校教育に限られている農村婦人の多くが受けてきている教育はわずかなものなので、米の生産と加工への婦人達の参加の成長がおくれる有力な原因となっている。

農村地区では、大多数の女達も又、無給の家族メンバーとして農作業ではたらかねばならない。このように結婚と家族生活は必然的に日常の農作業の単調な仕事に結びついている。その上現代の農業方法を教えることや設備等の提供は、ずっと長く男のみを対象としてなされているので、

農村の女達の経済参加の発展にとって大きな不利を生んでいる。適当な現代の科学に基づく農業技術と家庭経営によって、養成すると女達も、その生産性が向上するだろう。

#### 4 農村婦人の必要としていることと問題

##### 4-1 農村婦人自身の認識

GONZALE'Sの研究(1976年)は、自分達の問題の原因とその解決案の婦人達自身の意識を調査した。大多数(85%母親, 69%娘)の彼女達は問題は環境と外的条件によって引き起こされていると感じていた。問題が自分達の不充分さや他者の不足によると考えている者は極めて少なかった。66%の母親と76%の娘は、貧困は社会で固定したものと考え、これは教育によって緩和されることは不可能であると感じていた。大多数(63%の母親と78%の娘)がその問題に打ち勝つ個人的な努力をしなければならないと感じていた。

少数の女達(38%の母親と2.8%の娘)は完全に無力に感じて宿命論的解決に従っていた。次の事を挙げるのはおもしろい。それは、彼女達の問題を解決するために、外部の政府機関や政府の助けをうることを示唆するものがほとんどいなかったということである。これは、わずかに2.9%の母親と2.8%の娘によって言及されたことであった。それらの問題がそれ自身外的条件への反応のせいにはされたという事実にもかかわらず、この調査結果は勇気付けるものである。これは次のことを意味している。すなわち、適当な誘導があったならば、これらの婦人達は自分で努力して改革へと向かわせる方法を学ぶだろうということと、彼女達自身の問題を解くため農村婦人を助ける外部の組織作りが必要であるということである。

##### 4-2 外部政府機関の認識として

以下が、外部政府機関により理解されている問題である。

- (1) 伝統的な男性優位の考え、婦人の潜在能力の認識の欠如、男女の機会不均等。
- (2) 農村の女性達のうわべの伝統的な考え方、すなわち、彼女達が夫とともにいなければならないとはっきり運命づけられていて、barangayで生きねばならないという考え方、彼女達は自分達の現在の役割を一般的に甘受しているようである。
- (3) 低学歴
- (4) 実践的な専門技術訓練の機会の欠如、農家現代化プログラムはいつも男に対してなされる。
- (5) 貧困な経済条件
- (6) 社会サービスの欠如
- (7) 農村計画の欠如

#### 5 婦人参加を促す改善のための示唆と提言

仕事の単純化手法を適用する開発援助と、農村婦人の家庭内重労働を減らす適切な技術を含む、彼女達の活動は庭や野良で行われ、家事と農作業を改善し軽くしている。これは又、次の調査を必要としている。農村婦人がもっている、色々な仕事のための既存の適切な技術についての調査である。それはその技術がその地域の他の人々に広く採用されるか、目標人口にまで普及

できるかを測定するために行う。その後、これらの技術を婦人達に伝え、それがどのように農家の下働きとしての彼女らの役割の遂行を改善するかを測定するなどに、発展するべきである。

- ・ 職務上の教育と養成プログラム実施の上での技術的経済的援助の用意。—これらの内容は婦人達が家庭で農作業に、そして共同体でしなければならない色々の仕事にたいする責任と権利についての意識のレベルを引き上げるための、誘導活動（動機づけ）に関するものである。
- ・ 対人関係、問題解決、リーダーシップと組織の開発、そして経営のような効果的な共同体参加のための教育的な技術養成。

家庭経営—仕事の単純化、予算作り、時間と労働力の適性化、家庭の節約の工夫

農作業—科学的な土地の肥沃さの保持、資源の改良と再利用、現代の適切な道具の使用

実施のための技術的経済的援助の提供、現代の科学的な農法での婦人達の養成とその運営、それらは家庭経営、共同活動による取り組み、すなわち、彼女達が家事と農作業を効果的に調和させることができる、家庭のやりくりについてのものでなければならない。そのように、養成計画は農業プログラムと家庭経営のどちらにおいても、その多様な役割と機能に於いて、彼女達の技術をのばすために提供されるものである。

- ・ 農繁期の子供のための昼間の世話をするセンターの準備—共同努力を高めるための諸提案
- ・ 農業と収入確保の事業を共同で信頼を築く計画において、経営とentrepreneurialな技術に関するアジア太平洋地域の婦人のための共同訓練。
- ・ 多地域のグループ間での婦人リーダーの交換研究旅行プログラムを通して農作業支援の中での農村婦人のリーダーシップの強化。
- ・ 家庭と農作業で農家婦人によって使われる小道具と実地的な技術の研究における共同努力。
- ・ 農業婦人グループに関する政府機関によって使われる普及情報と普及する物の交換と分配。
- ・ 国際的な又、地域的な会議等、目的が達成できるその他の手段を通して、技術経験と専門的知識の交換による国際的・地域的な協力の促進。